

講義コード	U360100101	科目ナンバリング	036A101	単位	4
講義名	○基礎演習ⅠA				
英文科目名	Practical works on the basic French language, I				
担当者名	鈴木 雅生				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 1年	
時間割	通年 火曜日 2時限 西1－307.通年 木曜日 2時限 西1－307				

授業概要

週2回、1年間でフランス語の基礎を学ぶ。

到達目標

フランス語読解のための文法を習得し、基本的なフランス語のテキストを読むことができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス、文字と発音
第2回	Leçon 1 (1): 名詞の性・数、冠詞、形容詞、提示表現
第3回	Leçon 1 (2): 人称代名詞1、第一群規則動詞、否定文1
第4回	Leçon 2 (1): être、avoir、否定文2
第5回	Leçon 2 (2): 疑問文、指示形容詞、所有形容詞
第6回	Leçon 3 (1): 第二群規則動詞、縮約、aller、venir
第7回	Leçon 3 (2): 近接未来、近接過去、疑問代名詞1、疑問形容詞、疑問副詞
第8回	Leçon 4 (1): 形容詞・名詞の複数形・女性形、形容詞の位置
第9回	Leçon 4 (2): 比較級・最上級、人称代名詞強勢形
第10回	Leçon 5 (1): 複合過去、関係代名詞1
第11回	Leçon 5 (2): 強調構文、受動態、命令法
第12回	Leçon 6 (1): 人称代名詞の目的補語
第13回	Leçon 6 (2): 準助動詞、指示代名詞、所有代名詞
第14回	Leçon 7 (1): 代名動詞
第15回	Leçon 7 (2): 中性代名詞
第16回	Leçon 8 (1): 半過去、大過去、時制の一致1
第17回	Leçon 8 (2): 疑問代名詞2、関係代名詞2
第18回	Leçon 9 (1): 単純未来、前未来
第19回	Leçon 9 (2): 非人称構文、不定代名詞・不定形容詞
第20回	Leçon 10 (1): 条件法現在、条件法過去、時制の一致2
第21回	Leçon 10 (2): 知覚動詞、放任動詞、使役動詞
第22回	Leçon 11 (1): 直接話法と間接話法
第23回	Leçon 11 (2): 現在分詞、ジェロンディフ、感嘆文
第24回	Leçon 12 (1): 接続法現在、接続法過去
第25回	Leçon 12 (2): 接続法の用法
第26回	補遺: 単純過去、前過去、接続法半過去、接続法大過去、条件法過去第2形

授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進度によって変更する可能性があることは言うまでもない。

授業方法

講義および問題演習

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業前には指示した個所の問題をやっておくこと。授業後は、その日に学んだ文法事項、単語、表現などを復習し、疑問点があれば次回の授業で質問すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	

学期末試験(第1学期)

学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト	10 %	
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

テストの答案は返却し、授業内で解説を行う。

教科書

グラメール・フランセーズ(新訂版),学習院フランス語教育研究会,朝日出版社,2025,978-4-255-35369-2

フランス語動詞60ー活用・用法・索引ー,久保田剛史、高橋信良、井上櫻子,朝日出版社,2015, 978-4-255-35252-7

参考文献コメント

辞書、参考書など、教室で指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

予習・復習を欠かさないこと。

講義コード	U360100102	科目ナンバリング	036A101	単位	4
講義名	○基礎演習 I B				
英文科目名	Practical works on the basic French language, I				
担当者名	志々見 剛				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 1年	
時間割	通年 火曜日 2時限 西1－209.通年 木曜日 2時限 西1－209				

授業概要

週2回、1年間でフランス語の基礎を学びます。

到達目標

フランス語読解のための文法を習得し、基本的なフランス語のテキストを読むことができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス、文字と発音
第2回	Leçon 1 (1):名詞の性・数、冠詞、形容詞、提示表現
第3回	Leçon 1 (2):人称代名詞1、第一群規則動詞、否定文1
第4回	Leçon 2 (1):être、avoir、否定文2
第5回	Leçon 2 (2):疑問文、指示形容詞、所有形容詞
第6回	Leçon 3 (1):第二群規則動詞、縮約、aller、venir
第7回	Leçon 3 (2):近接未来、近接過去、疑問代名詞1、疑問形容詞、疑問副詞
第8回	Leçon 4 (1):形容詞・名詞の複数形・女性形、形容詞の位置
第9回	Leçon 4 (2):比較級・最上級、人称代名詞強勢形
第10回	Leçon 5 (1):複合過去、関係代名詞1
第11回	Leçon 5 (2):強調構文、受動態、命令法
第12回	Leçon 6 (1):人称代名詞の目的補語
第13回	Leçon 6 (2):準助動詞、指示代名詞、所有代名詞
第14回	Leçon 7 (1):代名動詞
第15回	Leçon 7 (2):中性代名詞
第16回	Leçon 8 (1):半過去、大過去、時制の一致1
第17回	Leçon 8 (2):疑問代名詞2、関係代名詞2
第18回	Leçon 9 (1):単純未来、前未来
第19回	Leçon 9 (2):非人称構文、不定代名詞・不定形容詞
第20回	Leçon 10 (1):条件法現在、条件法過去、時制の一致2
第21回	Leçon 10 (2):知覚動詞、放任動詞、使役動詞
第22回	Leçon 11 (1):直接話法と間接話法
第23回	Leçon 11 (2):現在分詞、ジェロンディフ、感嘆文
第24回	Leçon 12 (1):接続法現在、接続法過去
第25回	Leçon 12 (2):接続法の用法
第26回	補遺:単純過去、前過去、接続法半過去、接続法大過去、条件法過去第2形

授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進度によって変更する可能性があります。

授業方法

講義および問題演習

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業前には指示した個所の問題を行う。 授業後は、その日に学んだ文法事項、単語、表現などを復習し、疑問点があれば次回の授業で質問する。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	

学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	60 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

割合等を変更する場合は、周知します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

テストの答案は採点の上、返却します。

教科書

- グラメール・フランセーズ(新訂版),学習院フランス語教育研究会,朝日出版社,2025
- フランス語動詞60ー活用・用法・索引ー,久保田剛史、高橋信良、井上櫻子,朝日出版社,2015, 978-4-255-35252-7

参考文献コメント

辞書、参考書などは、教室で指示します。

履修上の注意

- 履修者数制限あり。
- 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

予習・復習を欠かさないこと。

講義コード	U360100103	科目ナンバリング	036A101	単位	4
講義名	○基礎演習 I C				
英文科目名	Practical works on the basic French language, I				
担当者名	内藤 真奈				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 1年	
時間割	通年 火曜日 2時限 北1－305.通年 木曜日 2時限 北1－305				

授業概要

週2回の授業を通して、1年間でフランス語の基礎(初級文法、発音、語彙・表現など)を学ぶ。

到達目標

1. フランス語の基礎的なルールを習得する。
2. 辞書を用いてフランス語の短い文章を読むことができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス、文字と発音 理解と問題演習
第2回	Leçon 1 (1) 名詞の性・数、冠詞、形容詞1、提示表現 理解と問題演習
第3回	Leçon 1 (2) 人称代名詞1:主語、第1群規則動詞、否定文1 理解と問題演習
第4回	Leçon 2 (1) être、avoir、否定文2 理解と問題演習
第5回	Leçon 2 (2) 疑問文、指示形容詞、所有形容詞 理解と問題演習
第6回	Leçon 3 (1) 第2群規則動詞、縮約、aller、venir 理解と問題演習
第7回	Leçon 3 (2) 近接未来・近接過去、疑問代名詞1、疑問形容詞、疑問副詞 理解と問題演習
第8回	Leçon 4 (1) 形容詞・名詞の複数形・女性形、形容詞の位置 理解と問題演習
第9回	Leçon 4 (2) 比較級・最上級、人称代名詞2:強勢形 理解と問題演習
第10回	Leçon 5 (1) 複合過去、関係代名詞1 理解と問題演習
第11回	Leçon 5 (2) 強調構文、性数一致、受動態、命令法 理解と問題演習
第12回	Leçon 6 (1) 人称代名詞3:目的補語 理解と問題演習
第13回	Leçon 6 (2) 準助動詞、指示代名詞、所有代名詞 理解と問題演習
第14回	Leçon 7 (1) 代名動詞 理解と問題演習
第15回	Leçon 7 (2) 中性代名詞 理解と問題演習
第16回	Leçon 8 (1) 半過去、大過去、時制の一致1 理解と問題演習
第17回	Leçon 8 (2) 疑問代名詞2、関係代名詞2 理解と問題演習
第18回	Leçon 9 (1) 単純未来、前未来 理解と問題演習
第19回	Leçon 9 (2) 非人称構文、不定代名詞・不定形容詞 理解と問題演習
第20回	Leçon 10 (1) 条件法現在、条件法過去、時制の一致2 理解と問題演習
第21回	Leçon 10 (2) 知覚動詞、放任動詞、使役動詞 理解と問題演習
第22回	Leçon 11 (1) 直接話法・間接話法 理解と問題演習
第23回	Leçon 11 (2) 現在分詞、ジェロンディフ、感嘆文 理解と問題演習
第24回	Leçon 12 (1) 接続法現在、接続法過去 理解と問題演習
第25回	Leçon 12 (2) 接続法の用法 理解と問題演習
第26回	補遺:単純過去、前過去、接続法半過去・大過去、条件法過去第2形、自由間接話法

授業計画コメント

単元の内容、履修者の理解度にしたがって、必要があれば進度を調整する。

授業方法

教科書に沿って文法を理解し、練習問題を行うことで整理、定着を図る。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習:次の授業で扱う課の内容に目を通しておく。予習課題を行う。(1時間)
 復習:文法事項、単語、表現などを復習し、復習課題を行い、小テストの準備をする。疑問点があれば整理し、次の授業で質問する。(1時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分 (%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト	20 %	
レポート		
小テスト	10 %	
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	10 %	課題提出、積極的な授業参加
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

評価基準は目安であり、状況によっては変更する場合がある。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小テスト、定期試験などの答案は採点し、コメントを付して返却する。

教科書

グラメール・フランセーズ 新訂版,学習院フランス語教育研究会,朝日出版社,2025,978-4-255-35369-2
フランス語動詞60ー活用・用法・索引ー,久保田剛史、高橋信良、井上櫻子,朝日出版社,2015, 978-4-255-35252-7

参考文献コメント

辞書、参考書などは授業で指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

各課の予習・復習は必ず行うこと。

講義コード	U360101101	科目ナンバリング	036A102	単位	4
講義名	○基礎演習ⅡA				
英文科目名	Practical works on the basic French language, Ⅱ				
担当者名	田上 竜也,鈴木 重周				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 2年	
時間割	通年 月曜日 5時限 南1－202.通年 水曜日 1時限 南1－202				

授業概要

2名の担当者で、それぞれが中級文法(田上)、講読(鈴木)を扱う。

到達目標

フランス語の基礎文法を再確認した上で、辞書を使ってテキストがスムーズに読解できる力を身に着ける。

授業内容

実施回	内容
第1回	全般的説明。
第2回	文法のおさらい(田上)、テキスト講読(鈴木)
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	前期のまとめ。前期試験。
第14回	後期の説明
第15回	文法のおさらい、和文仏訳(田上)、テキスト講読(鈴木)
第16回	〃
第17回	〃
第18回	〃
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	〃
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	年間のまとめ。後期試験。

授業計画コメント

授業進度は、学習者の理解度にあわせて調節する。

授業方法

原則対面による演習、場合によりZoom使用。

使用言語

日本語・英語

準備学習(予習・復習)

事前に当該箇所を読み、下調べをすること。また必ず復習もすること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	25 %	
学年末試験(第2学期)	25 %	

学年末試験(第2学期)	%	
中間テスト	0	%
レポート	0	%
小テスト	25	%
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	25	%
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

能動的クラス参加、グループ作業の成果等:25% (聴講態度重視) 第1学期(学期末試験):25% (試験の成績による) 第2学期(学期末試験):25% (試験の成績による) 真摯に学習することはもちろんであるが、さらに聴講態度も重視する。居眠り、私語、飲食(ガム、飴含む)、無断退出、メールなどは減点対象となり、はなはだしい場合には単位取得不可とみなす場合もある。小テスト:25% (動詞活用や単語などについて随時行う)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

第1学期末試験および小テストは返却する。第2学期末試験は返却しないが、成績に疑問があれば質問に答える(田上)

教科書

オン・ナヴァンス,阿南婦美代他,駿河台出版社,987-4-411-01188-6
フランス語動詞60ー活用・用法・索引ー,久保田剛史、高橋信良、井上櫻子,朝日出版社,2015,978-4-255-35252-7 C1085
La culture française,Olivier Lorillard,アルマ出版,2024,978-4-905343-32-5

教科書コメント

講読用教科書は3.『La culture française』を使います(鈴木)。

参考文献コメント

辞書など、教室で指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

履修態度も平常点に含む。授業中の飲食(ガム、飴など)、携帯電話、スマートフォン利用、居眠り、私語、途中退出(必要な場合には申告すること)は大きな減点対象となるので注意すること。

講義コード	U360101102	科目ナンバリング	036A102	単位	4
講義名	○基礎演習ⅡB				
英文科目名	Practical works on the basic French language, Ⅱ				
担当者名	須藤 健太郎.土橋 友梨子				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 2年	
時間割	通年 火曜日 1時限 西1－210.通年 木曜日 5時限 西2－203				

授業概要

すでにフランス語の初級文法と仏文読解の基礎を習得し終えた学生に(基本的に2年生向け)、より高度な仏文読解のテクニックを教え、同時に獲得した文法知識を確かなものとして活用できるようにする。

到達目標

フランス語の基本構造を理解すると同時に、単語の語彙を基本2000語程度に広げ、フランス語圏における生活と文化の基礎知識を獲得し、平易な文献を辞書を用いつつ自力で読解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明:毎週1回は、仏文読解の演習(担当:須藤)を行い、毎週もう1つの回では、中級文法の演習(担当:土橋)を行う。
第2回	テキスト読解、文法演習(1)
第3回	テキスト読解、文法演習(2)
第4回	テキスト読解、文法演習(3)
第5回	テキスト読解、文法演習(4)
第6回	テキスト読解、文法演習(5)
第7回	テキスト読解、文法演習(6)
第8回	テキスト読解、文法演習(7)
第9回	テキスト読解、文法演習(8)
第10回	テキスト読解、文法演習(9)
第11回	テキスト読解、文法演習(10)
第12回	テキスト読解、文法演習(11)
第13回	理解度の確認
第14回	前期の振り返り
第15回	テキスト読解、文法演習(12)
第16回	テキスト読解、文法演習(13)
第17回	テキスト読解、文法演習(14)
第18回	テキスト読解、文法演習(15)
第19回	テキスト読解、文法演習(16)
第20回	テキスト読解、文法演習(17)
第21回	テキスト読解、文法演習(18)
第22回	テキスト読解、文法演習(19)
第23回	テキスト読解、文法演習(20)
第24回	テキスト読解、文法演習(21)
第25回	テキスト読解、文法演習(22)
第26回	理解度の確認

授業計画コメント

上記の内容に加え、読解の授業において、4年次での卒論執筆の準備となるようなレポートの書き方についての演習を行う。

授業方法

演習形式。文法事項の説明、練習問題の解説、仏文和訳の読解と解説を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に辞書を丹念に引きながら教科書の該当箇所を読んだうえで発表の準備をし、練習問題などを行うこと(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート	10 %	
小テスト	15 %	
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	15 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の配分はあくまで目安であり、すべての項目に意欲的に取り組むことが求められる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験やレポートは実施後に採点、コメントをつけて返却する。

教科書

ズーム！2 ー中級編ー,慶応義塾大学法学部フランス語部会,駿河台出版社,2022,9784411011350

教科書コメント

授業時に指示・配布(須藤)
上記教科書使用(土橋)

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席すること。

講義コード	U360101103	科目ナンバリング	036A102	単位	4
講義名	○基礎演習ⅡC				
英文科目名	Practical works on the basic French language, Ⅱ				
担当者名	川口 寛子.岡部 杏子				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 2年	
時間割	通年 水曜日 1時限 西2－403.通年 木曜日 5時限 西1－108				

授業概要

すでにフランス語の初級文法と仏文読解の基礎を習得し終えた学生に(基本的に2年生向け)、より高度な仏文読解のテクニックを教え、同時に獲得した文法知識を確かなものとして活用できるようにする。

到達目標

フランス語の基本構造を理解すると同時に、単語の語彙を基本2000語程度に広げ、フランス語圏における生活と文化の基礎知識を獲得し、平易な文献を辞書を用いつつ自力で読解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明:毎週1回は、仏文読解の演習を行い、毎週もう1つの回では、中級文法の演習を行う。
第2回	テキスト読解、文法演習(1)
第3回	テキスト読解、文法演習(2)
第4回	テキスト読解、文法演習(3)
第5回	テキスト読解、文法演習(4)
第6回	テキスト読解、文法演習(5)
第7回	テキスト読解、文法演習(6)
第8回	テキスト読解、文法演習(7)
第9回	テキスト読解、文法演習(8)
第10回	テキスト読解、文法演習(9)
第11回	テキスト読解、文法演習(10)
第12回	テキスト読解、文法演習(11)
第13回	理解度の確認
第14回	前期の振り返り
第15回	テキスト読解、文法演習(12)
第16回	テキスト読解、文法演習(13)
第17回	テキスト読解、文法演習(14)
第18回	テキスト読解、文法演習(15)
第19回	テキスト読解、文法演習(16)
第20回	テキスト読解、文法演習(17)
第21回	テキスト読解、文法演習(18)
第22回	テキスト読解、文法演習(19)
第23回	テキスト読解、文法演習(20)
第24回	テキスト読解、文法演習(21)
第25回	テキスト読解、文法演習(22)
第26回	理解度の確認

授業計画コメント

上記の内容に加え、読解の授業においては4年次での卒論執筆の準備となるようなレポートの書き方についての演習も行う。

授業方法

演習形式
文法事項の説明、練習問題の解説、仏文和訳の読解と解説を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に辞書を丹念に引きながら教科書の該当箇所を読んだうえで発表の準備をし、練習問題などを行うこと(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分 (%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	10 %	
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記はあくまでも目安であり、学期末試験以外の20%は、出席、小テストの結果、授業参加への積極性などを考慮して総合的に採点する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験や小テストは実施後に採点、コメントをつけて返却する。

教科書

ことばの色 中級からのフランス文学読本,杉本圭子、福田桃子、岡部杏子,朝日出版社,初,2020,978-4-255-35312-8

教科書コメント

授業時に指示・配布(川口)問題集を使用する際には、初回の授業でお知らせします。
上記教科書使用 (岡部)

参考文献

新フランス語文法事典,朝倉季雄,白水社,2002,978-4560000373

参考文献コメント

授業時に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360102101	科目ナンバリング	036A103	単位	4
講義名	フランス語演習A				
副題	Traduire en français				
英文科目名	Seminar in the French language				
担当者名	MARE, Thierry				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 3年～4年	
時間割	通年 水曜日 3時限 西1－207				

授業概要

Ce cours, entièrement dispensé en français, sera consacré au thème, c'est-à-dire à la traduction d'un morceau de littérature japonaise, extrait de roman ou récit que j'aurai choisi et distribuerai aux étudiants au début de l'année.

到達目標

Il s'agira donc de mettre en pratique les acquis des années précédentes en produisant une traduction française correcte et, si possible, élégante d'un texte japonais donné.

授業内容

実施回	内容
第1回	A chaque séance, une dizaine de lignes de japonais seront données à traduire en français.
第2回	Les étudiants ont jusqu'à présent rarement eu l'occasion de travailler sur des textes suivis et ont souvent tendance à opérer phrase par phrase.
第3回	Ce cours est destiné à leur donner l'habitude d'un effort continu dans l'expression en langue française.
第4回	Il en sera ainsi pour toutes les séances jusqu'à la fin de l'année.
第5回	Etc.
第6回	Etc.
第7回	Etc.
第8回	Etc.
第9回	Etc.
第10回	Etc.
第11回	Etc.
第12回	Etc.
第13回	Etc.
第14回	Etc.
第15回	Etc.
第16回	Etc.
第17回	Etc.
第18回	Etc.
第19回	Etc.
第20回	Etc.
第21回	Etc.
第22回	Etc.
第23回	Etc.
第24回	Etc.
第25回	Etc.
第26回	Etc.

授業計画コメント

A l'occasion de ces travaux, je me livrerai à un certain nombre de mises au point grammaticales, lexicales ou stylistiques destinées à faciliter (peut-être !) le travail des élèves.

授業方法

J'interrogerai les étudiants un par un au cours de l'année (au moins deux fois par semestre) et les prierai de venir écrire au tableau la traduction qu'ils proposent d'une phrase donnée.

使用言語

日本語・英語

準備学習(予習・復習)

A chaque cours, les étudiants seront tenus d'apporter une préparation écrite. Il m'arrivera de ramasser certains de ces travaux,

que je rendrai dûment corrigés au début de la séance suivante. Par ailleurs certains étudiants seront priés de venir au tableau écrire leur proposition de traduction personnelle, que je commenterai et amenderai, si nécessaire, avant d’indiquer ma propre traduction. Une fois rentrés chez eux, les étudiants devront revoir leurs notes de cours et en vérifier chaque transcription dans un dictionnaire ou un manuel de grammaire, jusqu’à ce qu’ils soient sûrs d’avoir tout compris (ou d’avoir des questions à poser).

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	60 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):10% 第2学期(学年末試験):60% 第1学期(学期末試験):30%
Ces pourcentages n’ont, bien sûr, aucun sens. Il s’agira de mesurer sur toute l’année le travail et les progrès des étudiants.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Il va de soi que les examens seront rendus accompagnés de commentaires et d’un corrigé expliqué en classe.

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360102102	科目ナンバリング	036A103	単位	4
講義名	フランス語演習B				
副題	Traduire en français				
英文科目名	Seminar in the French language				
担当者名	MARE, Thierry				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 3年～4年	
時間割	通年 水曜日 4時限 西1－207				

授業概要

Ce cours, entièrement dispensé en français, sera consacré au thème, c'est-à-dire à la traduction d'un morceau de littérature japonaise, extrait de roman ou récit que j'aurai choisi et distribuerai aux étudiants au début de l'année.

到達目標

Il s'agira donc de mettre en pratique les acquis des années précédentes en produisant une traduction française correcte et, si possible, élégante d'un texte japonais donné.

授業内容

実施回	内容
第1回	A chaque séance, une dizaine de lignes de japonais seront données à traduire en français.
第2回	Les étudiants ont jusqu'à présent rarement eu l'occasion de travailler sur des textes suivis et ont souvent tendance à opérer phrase par phrase.
第3回	Ce cours est destiné à leur donner l'habitude d'un effort continu dans l'expression en langue française.
第4回	Il en sera ainsi pour toutes les séances jusqu'à la fin de l'année.
第5回	Etc.
第6回	Etc.
第7回	Etc.
第8回	Etc.
第9回	Etc.
第10回	Etc.
第11回	Etc.
第12回	Etc.
第13回	Etc.
第14回	Etc.
第15回	Etc.
第16回	Etc.
第17回	Etc.
第18回	Etc.
第19回	Etc.
第20回	Etc.
第21回	Etc.
第22回	Etc.
第23回	Etc.
第24回	Etc.
第25回	Etc.
第26回	Etc.

授業計画コメント

A l'occasion de ces travaux, je me livrerai à un certain nombre de mises au point grammaticales, lexicales ou stylistiques destinées à faciliter (peut-être !) le travail des élèves.

授業方法

J'interrogerai les étudiants un par un au cours de l'année (au moins deux fois par semestre) et les prierai de venir écrire au tableau la traduction qu'ils proposent d'une phrase donnée.

使用言語

日本語・英語

準備学習(予習・復習)

A chaque cours, les étudiants seront tenus d'apporter une préparation écrite. Il m'arrivera de ramasser certains de ces travaux,

que je rendrai dûment corrigés au début de la séance suivante. Par ailleurs certains étudiants seront priés de venir au tableau écrire leur proposition de traduction personnelle, que je commenterai et amenderai, si nécessaire, avant d’indiquer ma propre traduction. Une fois rentrés chez eux, les étudiants devront revoir leurs notes de cours et en vérifier chaque transcription dans un dictionnaire ou un manuel de grammaire, jusqu’à ce qu’ils soient sûrs d’avoir tout compris (ou d’avoir des questions à poser).

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	60 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):10% 第2学期(学年末試験):60% 第1学期(学期末試験):30%
Ces pourcentages n’ont, bien sûr, aucun sens. Il s’agira de mesurer sur toute l’année le travail et les progrès des étudiants.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Il va de soi que les examens seront rendus accompagnés de commentaires et d’un corrigé expliqué en classe.

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360103101	科目ナンバリング	036A800	単位	4
講義名	ゼミナールA				
副題	アンドレ・ジッド研究				
英文科目名	Seminar				
担当者名	鈴木 雅生				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 3年～4年	
時間割	通年 金曜日 3時限 北1－406				

授業概要

アンドレ・ジッドが自らのアルジェリア旅行の体験を織り込んで書いた『背徳者 L’Immoraliste』(1902)を読む。旅行先の北アフリカで重病に倒れたあと、九死に一生を得て回復した主人公が、強烈な太陽の下ではじめて生命の歓喜に目覚め、既成の道徳や観念を捨ててひたすら肉体の感覚に生きる「背徳者」となる姿を描くこの作品を通して、ジッドの思想と文学について考えていきたい。

到達目標

フランス語の高度なテキストを読み、その内容を文化的歴史的背景を含めて理解するとともに、自らの言葉で解釈・分析できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(1)
第3回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(2)
第4回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(3)
第5回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(4)
第6回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(5)
第7回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(6)
第8回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(7)
第9回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(8)
第10回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(9)
第11回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(10)
第12回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(11)
第13回	前期のまとめ
第14回	後期ガイダンス
第15回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(12)
第16回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(13)
第17回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(14)
第18回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(15)
第19回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(16)
第20回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(17)
第21回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(18)
第22回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(19)
第23回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(20)
第24回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(21)
第25回	学生による発表、ディスカッション、教師による解説(22)
第26回	まとめ

授業計画コメント

詳しい授業計画は初回授業時に配布する。

授業方法

演習

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業で扱う範囲を読んだうえ、疑問点、気になった点、興味深い点などをあらかじめMoodleで提出すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分 (%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	夏期レポートおよび学年末レポート
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

教科書

L'Immoraliste:folio,André Gide,Gallimard,2020,9782070362295

参考文献

背徳者:岩波文庫,アンドレ・ジイド,岩波書店,978-4003255810

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360103102	科目ナンバリング	036A800	単位	4
講義名	ゼミナールB				
副題	文学と建築				
英文科目名	Seminar				
担当者名	田上 竜也				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 3年～4年	
時間割	通年 月曜日 3時限 西2-202				

授業概要

文学や諸芸術と建築とのかかわりを、さまざまなテキストを題材に考察します。

到達目標

作家、作品について理解を深めるとともに、文学や建築についての教養を深めます。

授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明
第2回	ゼミナールの主題についての講義
第3回	ゼミナールの主題についての講義
第4回	ゼミナールの主題についての講義
第5回	プレゼンテーションの方法指導
第6回	図書館ガイダンス
第7回	学生発表
第8回	学生発表
第9回	学生発表
第10回	学生発表
第11回	学生発表
第12回	学生発表
第13回	前期のまとめ
第14回	レポートの書き方指導
第15回	学生発表
第16回	学生発表
第17回	学生発表
第18回	学生発表
第19回	学生発表
第20回	学生発表
第21回	学生発表
第22回	学生発表
第23回	学生発表
第24回	美術館訪問
第25回	学生発表
第26回	年間のまとめ

授業計画コメント

テキストは随時コピー配布します。初回の授業で、学生のみなさんと相談のうえ、いくつかの候補から決定します。

授業方法

原則対面によるが、場合によりZoom使用

使用言語

日本語・英語

準備学習(予習・復習)

特に担当箇所は十分準備すること(約2、3時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	0 %	

学期末試験(第1学期)

学年末試験(第2学期)	0 %	
中間テスト	0 %	
レポート	50 %	プレゼンテーションおよび配布資料作成
小テスト	0 %	
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)	0 %	

成績評価コメント

能動的クラス参加、グループ作業の成果等:50%聴講態度重視。居眠り、私語、飲食(ガム、飴含む)、無断退出、メールなどは減点対象となります。レポート:50%(授業内発表のレジュメ)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表についてその都度コメントにより評価する。

教科書コメント

コピー配布。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

メールを使用、

講義コード	U360103103	科目ナンバリング	036A800	単位	4
講義名	ゼミナールC				
副題	翻訳者への第一歩				
英文科目名	Seminar				
担当者名	堀内 ゆかり				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 3年～4年	
時間割	通年 月曜日 3時限 西1－108				

授業概要

フランス語の文章をよく読み、意味を正確に理解したうえで、もとの文章の雰囲気を保つ日本語にするトレーニングをします。原文のリズムを感じるためには音読、原文を正確に読むにはフランス語力も不可欠です。自分の興味に応じたテーマに関する発表も予定しています。

今年度は Jean de Brunhoff によるくぞうのババール>シリーズの7作目『ババールとサンタクロース』(初版1936年)を読みます。

到達目標

「自分で考える」とは？ 翻訳や発表を通じて「自分で考える」ことを体得する。

授業内容

実施回	内容
第1回	Introduction 筆記体の読み方
第2回	音読、読解、翻訳の検討
第3回	音読、読解、翻訳の検討
第4回	音読、読解、翻訳の検討
第5回	音読、読解、翻訳の検討
第6回	音読、読解、翻訳の検討
第7回	音読、読解、翻訳の検討
第8回	音読、読解、翻訳の検討
第9回	音読、読解、翻訳の検討
第10回	音読、読解、翻訳の検討
第11回	音読、読解、翻訳の検討
第12回	音読、読解、翻訳の検討
第13回	第1学期まとめ
第14回	音読、読解、翻訳の検討
第15回	音読、読解、翻訳の検討
第16回	音読、読解、翻訳の検討
第17回	音読、読解、翻訳の検討
第18回	音読、読解、翻訳の検討
第19回	音読、読解、翻訳の検討
第20回	音読、読解、翻訳の検討
第21回	音読、読解、翻訳の検討
第22回	音読、読解、翻訳の検討
第23回	音読、読解、翻訳の検討
第24回	音読、読解、翻訳の検討
第25回	音読、読解、翻訳の検討
第26回	第2学期まとめ

授業方法

演習形式。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

翻訳(1時間以上)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分 (%)	備考
学期末試験(第1学期)	10 %	
学年末試験(第2学期)	10 %	
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	40 %	参加度で評価します
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
原則として返却します

教科書
Babar et le père Noël,Jean de Brunhoff,Hachette,9782211094900

履修上の注意
履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360103104	科目ナンバリング	036A800	単位	4
講義名	ゼミナールD				
副題	Comédies de Feydeau				
英文科目名	Seminar				
担当者名	MARE, Thierry				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 3年～4年	
時間割	通年 火曜日 3時限 西1－207				

授業概要

Dans ce séminaire, nous étudierons un certain nombre d’oeuvres de Georges Feydeau (1862–1921), auteur comique associé à la Belle Epoque (celle qui précède en Europe le première guerre mondiale) et spécialisé dans le genre du Vaudeville, dont il a poussé les ressorts de mécanique burlesque jusqu’aux extrémités.

到達目標

Ce cours se propose de donner des textes de Feydeau une présentation synthétique et d’en faire lire un certain nombre d’extraits pour en faire ressortir à la fois les différents effets comiques (jeux de mots, ironie, figures de rhétorique) ainsi que l’étrange dévalorisation du sens et de la communication qui culmine avec la figure du “quiproquo” : quand deux personnages se prennent chacun pour un autre.

授業内容

実施回	内容
第1回	Présentation générale : le théâtre comique avant Feydeau
第2回	『Un fil à la patte』1er acte
第3回	『Un fil à la patte』2ème acte
第4回	『Un fil à la patte』3ème acte
第5回	『L’Hôtel du Libre Echange』1er acte
第6回	『L’Hôtel du Libre Echange』2ème acte
第7回	『L’Hôtel du Libre Echange』3ème acte
第8回	『Le Dindon』1er acte
第9回	『Le Dindon』2ème acte
第10回	『Le Dindon』3ème acte
第11回	『La Dame de chez Maxim』1er acte
第12回	『La Dame de chez Maxim』2ème acte
第13回	『La Dame de chez Maxim』3ème acte
第14回	『La Puce à l’oreille』1er acte
第15回	『La Puce à l’oreille』 2ème acte
第16回	『La Puce à l’oreille』3ème acte
第17回	Les pièces en un acte : présentation du corpus
第18回	『Feu la mère de Madame』 (1)
第19回	『Feu la mère de Madame』 (2)
第20回	『On purge Bébé』 (1)
第21回	『On purge Bébé』 (2)
第22回	『Mais n’tu promène donc pas toute nue !』 (1)
第23回	『Mais n’tu promène donc pas toute nue !』 (2)
第24回	『Hortense a dit “j’m’en fous !”』 (1)
第25回	『Hortense a dit “j’m’en fous !”』 (2)
第26回	Conclusion générale

授業計画コメント

Ce programme pourra évoluer en fonction des besoins et notamment pour y intégrer les exposés préparés par les participants, élément essentiel de l’évaluation des étudiants.

授業方法

Chaque séance, nécessairement “en présentiel”, fera l’objet d’une présentation détaillée de ma part, suivie d’une lecture en commun, au cours de laquelle j’expliquerai tous les points d’histoire et de langue nécessaires à la compréhension du texte et des événements scéniques.

使用言語

日本語・英語

準備学習(予習・復習)

Les étudiants n’ont pas besoin de préparer quoi que ce soit avant la séance. En revanche je souhaite qu’ils révisent scrupuleusement tout ce qui aura été acquis dans chaque cours.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Outre la présence et la participation active au cours, l’évaluation portera sur un exposé, présenté devant toute la classe au cours du second semestre (à une date qui dépend donc du nombre d’étudiants inscrits au séminaire).

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Cet exposé pourra être prononcé en japonais mais les participants devront néanmoins me rendre une version en langue française du texte qu’ils auront composé pour rendre compte d’une partie (une dizaine de pages environ) de la pièce de Feydeau qu’ils auront choisi d’étudier.

教科書

Théâtre, Georges Eeydeau, Omnibus, 1, 2011, 978-2258090842

教科書コメント

Cette édition a l’avantage de présenter tous les textes dont nous nous servons au cours de cette année.

履修上の注意

履修者制限あり。第1回の授業に必ず出席すること。

講義コード	U360103105	科目ナンバリング	036A800	単位	4
講義名	ゼミナールE				
副題	作家たちの占領下 VII				
英文科目名	Seminar				
担当者名	水野 雅司				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 3年～4年	
時間割	通年 火曜日 2時限 北1－408				

授業概要

昨年度に引き続き、占領下のフランスをテーマとした作品や当時の状況に関する証言等を取り上げ、当時の作家・芸術家・知識人たちが歴史的現実とどのように向き合っていたのか、あるいは後の世代がどのように向き合おうとしているのかを考察すると同時に、文学作品や映画などの芸術における〈歴史と記憶〉という問題にも目を向けたい。第1学期は、ナタリー・サロート(Nathalie Sarraute)とマルグリット・デュラス(Marguerite Duras)の作品を取り上げる予定。また必要に応じて、上記以外の作家の作品などもサブテキストとして使用して、この時代についての理解を深めたい。

第2学期は受講生による研究発表とその後の質疑応答・討論を中心に進めていく。

到達目標

第二次世界大戦下のフランスに関する作品や文献に接することで、歴史的現実とそれに対する人間の表現活動のさまざまなあり方について理解を深め、自分なりの考えを持てるようになること、またそれを自分の言葉でまとめることができるようになることを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	Introduction I : 第1学期の授業の進め方について等
第2回	ゼミ生の自己紹介、自身の関心領域などについての情報交換等
第3回	テキスト訳読と解説(1)
第4回	テキスト訳読と解説(2)
第5回	サブテキスト・資料による演習と討論 I
第6回	テキスト訳読と解説(3)
第7回	テキスト訳読と解説(4)
第8回	テキスト訳読と解説(5)
第9回	サブテキスト・資料による演習と討論 II
第10回	テキスト訳読と解説(6)
第11回	テキスト訳読と解説(7)
第12回	テキスト訳読と解説(8)
第13回	理解度の確認
第14回	Intorduction II : 第2学期の授業および研究発表について等
第15回	サブテキスト・資料による演習と討論 III
第16回	研究発表と討論(1)
第17回	研究発表と討論(2)
第18回	研究発表と討論(3)
第19回	研究発表と討論(4)
第20回	研究発表と討論(5)
第21回	研究発表と討論(6)
第22回	研究発表と討論(7)
第23回	研究発表と討論(8)
第24回	研究発表と討論(9)
第25回	まとめ - 全体討論
第26回	到達度の確認

授業計画コメント

各回の内容・進度等は目安であり、受講生の理解度や討論の展開、発表の進捗状況に応じて柔軟に修正しながら進めていきます。

授業方法

- (1) 第1学期は、テキストの熟読(演習形式)がメインです。担当者による訳文の発表とそれに対する教員の解説が中心になります。また、随時、サブテキストや音声・映像資料などをもとに参加者同士で討議したり、課題提出をしてもらう予定です。
- (2) 第2学期は、各自の関心にもとづいてあらかじめ決めておいたテーマについて研究発表をしてもらい、発表後、参加者全員で討

議します。研究発表は、授業内で行うのが原則ですが、授業内での討論の時間を確保するため、あらかじめ準備したものを授業またはオンデマンドで配信するという形式も採用する場合があります。

(3) 学年末に研究発表での討論をもとに各自の研究結果をまとめたレポートの提出あるいは筆記試験で成果を確認します。

使用言語
日本語

準備学習(予習・復習)

事前にテキストの該当箇所を読み、疑問点を明確にしておくこと。研究発表のテーマが決定したら、授業と並行して、自主的に関連資料などに当たり、各自で準備しておく必要があります。指示された参考文献にも目を通しておくこと。(約1～2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	20 %	レポート等に代える場合もある。
学年末試験(第2学期)	40 %	レポート等に代える場合もある。
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	30 %	研究発表。討議への参加度など。
その他(備考欄を参照)	10 %	課題提出など。

成績評価コメント

上記はあくまでも目安です。学期末試験、第2学期の研究発表、学年末レポート、課題の成果および授業への参加度等を総合的に判断して評価します。また学期末試験に代えてレポート等の提出物を課す場合があります。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学期末試験、確認テスト、提出課題等は、必要に応じて授業内でフィードバックします。

教科書コメント

4月の授業内で指示します。

参考文献

- ナチ占領下のフランス－沈黙・抵抗・協力－:講談社選書メチエ,渡辺和行,講談社,1994
- ホロコーストのフランス,渡辺和行,人文書院,1998
- 占領下パリの思想家たち－収容所と亡命の時代:平凡社新書,桜井哲夫,平凡社,2007

参考文献コメント

その他、随時授業内で指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

質問や連絡などは授業の前後に受け付けます。次回の授業の前に確認が必要な場合は Moodle のメッセージにて受け付けます。ただし、すぐに返信できない場合もあるので、余裕を持って連絡してください。

講義コード	U360103106	科目ナンバリング	036A800	単位	4
講義名	ゼミナールF				
副題	デュ・ベレー研究				
英文科目名	Seminar				
担当者名	志々見 剛				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 3年～4年	
時間割	通年 金曜日 2時限 西1－204				

授業概要

『悔恨集Les Regrets』を主な対象に、ジョアシャン・デュ・ベレーの詩の読解を行います。

到達目標

辞書や様々なレファレンスを用いながら、詩の語法、形式、テーマなどを踏まえた上で、デュ・ベレーの詩の読解、鑑賞を行えるようになること。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(デュ・ベレー、『悔恨集』について)
第2回	テキストの読解と分析(1)
第3回	テキストの読解と分析(2)
第4回	テキストの読解と分析(3)
第5回	テキストの読解と分析(4)
第6回	テキストの読解と分析(5)
第7回	テキストの読解と分析(6)
第8回	テキストの読解と分析(7)
第9回	テキストの読解と分析(8)
第10回	テキストの読解と分析(9)
第11回	テキストの読解と分析(10)
第12回	テキストの読解と分析(11)
第13回	テキストの読解と分析(12)
第14回	2学期のイントロダクション
第15回	テキストの読解と分析(13)
第16回	テキストの読解と分析(14)
第17回	テキストの読解と分析(15)
第18回	テキストの読解と分析(16)
第19回	テキストの読解と分析(17)
第20回	テキストの読解と分析(18)
第21回	テキストの読解と分析(19)
第22回	テキストの読解と分析(20)
第23回	テキストの読解と分析(21)
第24回	テキストの読解と分析(22)
第25回	テキストの読解と分析(23)
第26回	まとめ

授業方法

演習

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指定された箇所について、辞書を引きながら事前に読んでおく。発表者は、発表用の資料を準備する。
(発表者:2時間、その他の人:30分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		

学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合は目安で、変更する可能性があります。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

コメントをつけて返却する。

教科書

Les Regrets,Joachim Du Bellay,Le Livre de Poche,2002,978-2253161073

履修上の注意

履修制限あり。第一回目の授業に必ず出席すること。

講義コード	U360103107	科目ナンバリング	036A800	単位	4
講義名	ゼミナールG				
副題	文化を比較する				
英文科目名	Seminar				
担当者名	内藤 真奈				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 3年～4年	
時間割	通年 火曜日 3時限 北1－407				

授業概要

2つの異なる文化(例えばフランスと日本)について、切り口を設定し比較することを通して、論理的思考を養うとともに文化理解を深めることを目指す。

到達目標

異なる文化圏における同種の文化現象について、切り口を見出し比較を行うことで、文化の違いを明確に示すことができるようになる。
 関連テーマについて話し合い、考えを明確に表現できるようになる。
 文化比較を通して、フランス文化の理解を深める。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	グループワーク①
第3回	個人研究テーマの発表①
第4回	個人研究テーマの発表②
第5回	グループワーク②
第6回	グループ発表とディスカッション①
第7回	グループ発表とディスカッション②
第8回	グループワーク③
第9回	グループワーク④
第10回	グループワーク⑤
第11回	グループ発表とディスカッション③
第12回	グループ発表とディスカッション④
第13回	レポートの書き方・前期のまとめ
第14回	前期末レポートの講評
第15回	個人研究テーマの発表③
第16回	個人研究テーマの発表④
第17回	個人発表とディスカッション①
第18回	個人発表とディスカッション②
第19回	個人発表とディスカッション③
第20回	個人発表とディスカッション④
第21回	個人発表とディスカッション⑤
第22回	個人発表とディスカッション⑥
第23回	個人発表とディスカッション⑦
第24回	個人発表とディスカッション⑧
第25回	個人発表とディスカッション⑨
第26回	一年のまとめ

授業計画コメント

授業内容に関する口頭発表に加え、卒論、3年次レポート等に関する発表や質問の機会を設ける。
 詳細なスケジュールは授業時に指示する。

授業方法

演習形式
 前期はグループワークとグループ発表、ディスカッションを、後期は個人による口頭発表とディスカッションを行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

準備学習(予習・復習)

予習:文化比較に関するグループワーク、グループ発表、個人発表の準備をする。疑問点があれば授業で質問ができるよう明確にしておく(1時間半)。
復習:発表やディスカッションで得た気づきをもとに、文化や文化比較について考察する(30分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	前期末レポート・学年末レポート
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	グループワーク・グループ発表・個人発表
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

評価基準は目安であり、状況によっては変更する場合がある。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートや発表に対して、適宜、コメントや講評を行う。

参考文献コメント

参考文献、資料は授業時に指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

履修生による調査・発表・ディスカッションが主体となるため、積極的な参加が求められる。

講義コード	U360103108	科目ナンバリング	036A800	単位	4
講義名	ゼミナールH				
副題	文化の最新動向を学ぶ				
英文科目名	Seminar				
担当者名	須藤 健太郎				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 3年～4年	
時間割	通年 火曜日 3時限 西1－303				

授業概要

フランス語で書かれた雑誌や新聞の文化欄の記事を読み、現在話題になっている文化の最新動向に触れてみます。最近の事象を知ることが、これまでに積み重ねられてきた歴史を学ぶことに繋がります。映画を中心に、芸術・文化・社会に関わるさまざまな領域を扱う予定です。

到達目標

語彙や構文を吟味しながら文意を読み取っていく精読の練習を繰り返すことで、初読でも素早く大意を捉え、おおよその趣旨を理解する能力を身につけることを目指します。

授業内容

実施回	内容
第1回	前期ガイダンス
第2回	映画(1)
第3回	映画(2)
第4回	映画(3)
第5回	映画(4)
第6回	映画(5)
第7回	映画(6)
第8回	芸術(1)
第9回	芸術(2)
第10回	文化(1)
第11回	文化(2)
第12回	社会(1)
第13回	社会(2)
第14回	後期ガイダンス
第15回	映画(7)
第16回	映画(8)
第17回	映画(9)
第18回	映画(10)
第19回	映画(11)
第20回	映画(12)
第21回	芸術(3)
第22回	芸術(4)
第23回	文化(3)
第24回	文化(4)
第25回	社会(3)
第26回	社会(4)

授業計画コメント

上記の計画はあくまで目安であり、受講者の理解度等に合わせて随時調整されます。

授業方法

演習形式(訳読・グループ発表・ディスカッション)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習・復習については、授業内で指示します。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の配分はあくまで目安であり、すべての項目に意欲的に取り組むことが求められます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートはコメントを付して返却します。

教科書コメント

必要に応じて適宜配布します。

参考文献コメント

必要に応じて適宜指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席すること。

講義コード	U360106101	科目ナンバリング	036A902	単位	0
講義名	卒業演習				
副題	メルシエ『タブロー・ド・パリ』に見る18世紀のパリ				
英文科目名	Graduation Seminar				
担当者名	志々見 剛				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 4年	
時間割	通年 木曜日 1時限 西1－211				

授業概要

『タブロー・ド・パリ』の抜粋をもとに、18世紀のパリの風俗や世相について考察する。

到達目標

フランス語の資料を正しく理解し、必要に応じて他の資料を参照しながら、与えられたテーマについて分析できるようになること。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	テキストの読解と分析(1)
第3回	テキストの読解と分析(2)
第4回	テキストの読解と分析(3)
第5回	テキストの読解と分析(4)
第6回	テキストの読解と分析(5)
第7回	テキストの読解と分析(6)
第8回	テキストの読解と分析(7)
第9回	テキストの読解と分析(8)
第10回	テキストの読解と分析(9)
第11回	テキストの読解と分析(10)
第12回	テキストの読解と分析(11)
第13回	テキストの読解と分析(12)
第14回	テキストの読解と分析(13)
第15回	テキストの読解と分析(14)
第16回	テキストの読解と分析(!5)
第17回	テキストの読解と分析(16)
第18回	テキストの読解と分析(!7)
第19回	テキストの読解と分析(18)
第20回	テキストの読解と分析(19)
第21回	テキストの読解と分析(20)
第22回	テキストの読解と分析(21)
第23回	テキストの読解と分析(22)
第24回	テキストの読解と分析(23)
第25回	テキストの読解と分析(24)
第26回	テキストの読解と分析(25)

授業計画コメント

テキストの選択、発表の形態等は、授業参加者の関心に応じて、ある程度、柔軟に対応する。
授業内の指示に従うこと。

授業方法

演習

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指定されたテキストを事前に読んでくる。(1時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	70 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合は目安であり、変更の可能性はある。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

その都度、コメントを行う。

教科書コメント

コピーを配布する。

参考文献コメント

授業にて紹介する予定。

履修上の注意

履修制限あり。初回の授業に必ず参加すること。
「卒業演習」は、この授業のほかに二つ、学科の指定する演習科目を履修する必要がある。
履修に際して間違いのないよう、十分気を付けること。

講義コード	U360107101	科目ナンバリング	036A407	単位	2
講義名	入門演習A				
英文科目名	Introduction to Academic Skills				
担当者名	鈴木 雅生				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 1年	
時間割	第1学期 金曜日 5時限 北1－407				

授業概要

大学で学ぶにあたって必要なアカデミック・スキル(課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レポートの作成、発表の仕方等)を、少人数の演習形式で習得する。

到達目標

1. 高校までとは異なる、大学での学び方を身につける。
2. 論理的なテキストを読解し、内容を要約できるようになる。
3. 論文・レポートを作成するうえでの基本的な知識、論理的な文章を書く能力を習得する。
4. 説得的な口頭発表の仕方を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	図書館の利用、資料・文献の検索
第3回	口頭発表グループ分け・テーマの設定
第4回	口頭発表の仕方
第5回	要約について学ぶ①
第6回	要約について学ぶ②
第7回	グループごとの発表①
第8回	グループごとの発表②
第9回	レポートの書き方①
第10回	レポートの書き方②
第11回	レポートの書き方③
第12回	レポートの書き方④
第13回	授業のまとめ

授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗によって変更する可能性があることは言うまでもない。

授業方法

講義、グループワーク、ディスカッションを組み合わせで行う

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業は課題をもとに進めるので、必ずやってくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	最終レポート
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	60 %	課題の提出と授業への積極的な参加を重視する
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題は授業内で解説をおこなう。レポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

参考文献

大学生 学びのハンドブック,世界思想社編集部・編,世界思想社編集部,4訂,2019,978-4-7907-1707-2
 新版 論文の教室 レポートから卒論まで,戸田山和久,NHK出版,2012,978-4140911945

履修上の注意

履修できるのは、フランス語圏文化学科の学生のみ。

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360107102	科目ナンバリング	036A407	単位	2
講義名	入門演習B				
英文科目名	Introduction to Academic Skills				
担当者名	志々見 剛				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 1年	
時間割	第1学期 金曜日 5時限 西2-406				

授業概要

大学で学ぶにあたって必要なアカデミック・スキル(課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レポートの作成、発表の仕方等)を、少人数の演習形式で習得する。

到達目標

1. 高校までとは異なる、大学での学び方を身につける。
2. 論理的なテキストを読解し、内容を要約できるようになる。
3. 論文・レポートを作成するうえでの基本的な知識、論理的な文章を書く能力を習得する。
4. 説得的な口頭発表の仕方を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	図書館の利用、資料・文献の検索
第3回	口頭発表グループ分け・テーマの設定
第4回	口頭発表の仕方
第5回	要約について学ぶ①
第6回	要約について学ぶ②
第7回	グループごとの発表①
第8回	グループごとの発表②
第9回	レポートの書き方①
第10回	レポートの書き方②
第11回	レポートの書き方③
第12回	レポートの書き方④
第13回	授業のまとめ

授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗によって変更する可能性があります。

授業方法

講義、グループワーク、ディスカッションを組み合わせで行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業は課題をもとに進めるので、必ずやってくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	最終レポート
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	60 %	課題の提出と授業への積極的な参加を重視する
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題は授業内で解説をおこなう。レポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

参考文献

大学生 学びのハンドブック,世界思想社編集部・編,世界思想社編集部,4訂,2019,978-4-7907-1707-2
 新版 論文の教室 レポートから卒論まで,戸田山和久,NHK出版,2012,978-4140911945

履修上の注意

履修できるのは、フランス語圏文化学科の学生のみ。

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360107103	科目ナンバリング	036A407	単位	2
講義名	入門演習C				
英文科目名	Introduction to Academic Skills				
担当者名	岡部 杏子				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 1年	
時間割	第1学期 金曜日 5時限 西2－203				

授業概要

大学で学ぶにあたって必要なアカデミック・スキル(課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レポートの作成、発表の仕方等)を、少人数の演習形式で習得する。

到達目標

1. 高校までとは異なる、大学での学び方を身につける。
2. 論理的なテキストを読解し、内容を要約できるようになる。
3. 論文・レポートを作成するうえでの基本的な知識、論理的な文章を書く能力を習得する。
4. 説得的な口頭発表の仕方を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	図書館の利用、資料・文献の検索
第3回	口頭発表グループ分け・テーマの設定
第4回	口頭発表の仕方
第5回	要約について学ぶ①
第6回	要約について学ぶ②
第7回	グループごとの発表①
第8回	グループごとの発表②
第9回	レポートの書き方①
第10回	レポートの書き方②
第11回	レポートの書き方③
第12回	レポートの書き方④
第13回	授業のまとめ

授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進度によって変更する可能性があることは言うまでもない。

授業方法

講義、グループワーク、ディスカッションを組み合わせで行う

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業は課題をもとに進めるので、必ずやってくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	最終レポート
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	60 %	課題の提出と授業への積極的な参加を重視する
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

- ・各回の課題をもれなく提出していること。
- ・要約、レポート、口頭発表の資料等では引用元を必ず示すこと。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題は授業内で解説をおこなう。レポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

参考文献

大学生 学びのハンドブック,世界思想社編集部・編,世界思想社編集部,4訂,2019,978-4-7907-1707-2
新版 論文の教室 レポートから卒論まで,戸田山和久,NHK出版,2012,978-4140911945

履修上の注意

履修できるのは、フランス語圏文化学科の学生のみ。
履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360107104	科目ナンバリング	036A407	単位	2
講義名	入門演習D				
英文科目名	Introduction to Academic Skills				
担当者名	土橋 友梨子				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 1年	
時間割	第1学期 金曜日 5時限 西2－505				

授業概要

大学で学ぶにあたって必要なアカデミック・スキル(課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レポートの作成、発表の仕方等)を、少人数の演習形式で習得する。

到達目標

- 1. 高校までとは異なる、大学での学び方を身につける。
- 2. 論理的なテキストを読解し、内容を要約できるようになる。
- 3. 論文・レポートを作成するうえでの研究倫理、基本的な知識、論理的な文章を書く能力を習得する。
- 4. 説得的な口頭発表の仕方を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	口頭発表グループ分け、テーマの設定
第3回	図書館の利用、資料・文献の検索
第4回	要約について学ぶ①
第5回	口頭発表の仕方
第6回	要約について学ぶ②
第7回	口頭発表の中間報告
第8回	グループごとの発表①:グループ1・2
第9回	グループごとの発表②:グループ3・4
第10回	レポートの書き方①:プランを作る
第11回	レポートの書き方②:本文の構成と書き方を学ぶ
第12回	レポートの書き方③:注・参考文献表を作る
第13回	授業のまとめ

授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗によって変更する可能性があることは言うまでもない。

授業方法

講義、グループワーク、ディスカッションを組み合わせで行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回課題を出す。授業はその課題をもとに進めるので、事前に必ずやってくること。
課題の予習1～2時間程度。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	最終レポート
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	60 %	課題の提出と授業への積極的な参加を重視する
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

準備学習でも述べたとおり、提出された課題を用いてグループワークや発表を進めるので課題の提出期限は必ず守ること。
最終レポートを必ず提出すること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題は授業内で解説をおこなう。レポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

参考文献

大学生 学びのハンドブック,世界思想社編集部・編,世界思想社編集部,4訂,2019,978-4-7907-1707-2
新版 論文の教室 レポートから卒論まで,戸田山和久,NHK出版,2012,978-4140911945

履修上の注意

履修できるのは、フランス語圏文化学科の学生のみ。
履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360200101	科目ナンバリング	036A201	単位	4
講義名	フランス語圏文化入門(言語・翻訳)				
英文科目名	Introduction to French Language Cultures: (Language & Translation)				
担当者名	中尾 和美				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 1年～4年		
時間割	通年 火曜日 4時限 西2－501				

授業概要

フランス語は系統的にも文法構造上も日本語とは全く異なった言語である。にもかかわらず、ともに「頭(tête)」という語は、「人間の頭、くぎの頭、冒頭」を指すことができる。他方、フランス語には、複合過去、半過去、大過去、単純過去など、日本語には存在しない多くの過去を示す形態がある。この授業では、フランス語を日本語と比較対照させることで、ことばについて考え、言語学の第一歩となるような視点を養うことを目的とする。具体的には、新聞、小説などから実際に収集した例文を観察し、日本語と対照させることで、フランス語の語彙の使い方、またフランス語の人称、時制、法、態などの文法形式がどのように言語外現実を表現しているかを考察する。さらに、フランス語の歴史や21世紀におけるフランス語圏の現状についても考える。

到達目標

フランス語がなぜイタリア語やスペイン語と似ているのか理解できるようになる。フランス語の文法(複合過去と半過去の違い、部分冠詞とは?)について、より具体的に理解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入 フランス語圏の国々の紹介
第2回	フランス語圏の国々の現状(1) ベルギー、スイス、ルクセンブルク
第3回	フランス語圏の国々の現状(2) カナダ、ルイジアナ
第4回	フランス語圏の国々の現状(3) アフリカ大陸
第5回	フランス語の歴史、変遷(1) ラテン語とフランス語
第6回	フランス語の歴史、変遷(2) ストラスブールの誓約
第7回	フランス語の歴史、変遷(3) 中世、ルネサンス期
第8回	フランス語の歴史、変遷(4) 近・現代
第9回	フランスにおける様々な地域語と海外領土
第10回	新語法 省略、頭字語
第11回	新語法 複合語、かばん語
第12回	借用語
第13回	借用語と言語政策
第14回	翻訳とは？
第15回	固有名詞の翻訳
第16回	仏語学的考察(1) 部分冠詞・不定冠詞
第17回	仏語学的考察(2) 定冠詞
第18回	仏語学的考察(3) 名詞の性
第19回	仏語学的考察(4) 女性の可視化と包括書法
第20回	仏語学的考察(5) 複合過去と半過去
第21回	仏語学的考察(6) 大過去、単純過去、近接過去
第22回	仏語学的考察(7) 単純未来と近接未来
第23回	仏語学的考察(8) 受動態・代名動詞
第24回	言葉遊び
第25回	なぞなぞ、ダジャレ
第26回	誤用

授業方法

授業内容をスクリーンに映し出し、テーマに沿って講義をおこなう。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

フランス語の初級文法の教科書を復習しておくことが好ましい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分 (%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

第1学期末と第2学期末にレポート提出を課す。レポート執筆において、AIの使用、剽窃が疑われる場合には、大学の「不正行為者への懲戒内規」に基づき、厳しく対応する。

毎回授業後に行う授業の復習を兼ねたコメントカードの提出、及び授業への参加、出席などの平常点も成績評価の対象とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回のコメントカードに書かれた質問については、次回の授業で答え、フィードバックを行う。

教科書コメント

必要に応じてプリントにて配布

参考文献

- 冠詞の謎を解く,小田涼,白水社,2019
- La République et les langues,Michel Launey,Raison d’agir,2023
- Le bon usage,M.Grevisse,Duculot,2011
- フランス語とはどういう言語か,大橋保夫,駿河台出版,1993
- 翻訳仏文法(上)(下),鷺見洋一,ちくま学芸文庫,2003

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

フランス語圏文化学科の2年生、またはフランス語既習の1年生のみ履修可能。他学科の学生は履修不可。フランス語未習の学生は履修を認めない。但し、1、2年生以外でも「ゼミナール」を履修する資格のない学生は履修を認める。

講義コード	U360201101	科目ナンバリング	036A202	単位	4
講義名	フランス語圏文化入門(舞台・映像)				
副題	フランス語圏の舞台・映像史				
英文科目名	Introduction to French Language Cultures: (Theater & Films)				
担当者名	大原 宣久				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 1年～4年		
時間割	通年 金曜日 1時限 中央－303				

授業概要

前期は、フランス語圏の映画史のおおまかな流れ、映画表現の変遷をたどっていきます。
その変遷をよりよく理解するために、古今の名作を題材に、映画作品にどのような主題が選ばれ、どのような技法が使われ、どのような要素が盛り込まれているか、そしてそれらはいかにして統合され、どのような意味を作品に与えているか等について、考察していきます。

後期は、フランスにおける演劇・舞踊(バレエ)・オペラといった舞台芸術史をたどります。
各ジャンルごとに、時代順に代表的な作品を紹介していく予定です。また、これら舞台芸術が文学・美術・音楽といった諸芸術とともに進化・発展していった過程を見ていきたいと思います。

以上に関しては、実際の授業では概論的な説明やテキスト(台本)のみに頼るのではなく、なるべく実際の映画や映像を見ながら実感・体験していけるようにしたいと思います。

到達目標

- 1、映画史(とくにフランス語圏の映画)の変遷をおおまかに理解できるようになる。
- 2、フランスの舞台芸術史の変遷をおおまかに理解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション——映画誕生
第2回	サイレント映画の時代
第3回	ルネ・クレール
第4回	ジュリアン・デュヴィヴィエ
第5回	ジャン・ルノワール
第6回	マルセル・カルネ(1)
第7回	マルセル・カルネ(2)
第8回	フランソワ・トリュフォー
第9回	ジャン＝リュック・ゴダール
第10回	ジャック・ドゥミ
第11回	エリック・ロメール
第12回	ヌーヴェルヴァーグ以降のフランス語圏映画(1)
第13回	ヌーヴェルヴァーグ以降のフランス語圏映画(2)
第14回	古典演劇(1)
第15回	古典演劇(2)
第16回	古典演劇(3)
第17回	ロマンティック・バレエ(1)
第18回	ロマンティック・バレエ(2)
第19回	ロマンティック・バレエ(3)
第20回	19世紀のオペラ(1)
第21回	19世紀のオペラ(2)
第22回	19世紀のオペラ(3)
第23回	19世紀のオペラ(4)
第24回	現代演劇(1)
第25回	現代演劇(2)
第26回	現代演劇(3)

授業計画コメント

以上はあくまで予定ですので、受講者の理解度などを考慮のうえ、順序・内容等、変更する可能性があります。

授業方法

講義

使用言語
日本語

準備学習(予習・復習)

授業内で取り上げた映画作品については、授業後に通して見ておくことが望ましい。紹介した文献についても、授業前後に読んでおくことが望ましい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

出席、およびリアクションペーパーの内容を評価します。
なお、欠席・遅刻や授業中の私語・途中退席などが目立つ学生は減点するので注意すること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

リアクションペーパーの内容については、検討に値するものは授業内で随時紹介し、考察・講評をおこなう。

参考文献

フランス映画史の誘惑:集英社新書,中条省平,集英社,2003,9784087201796
映画とは何か(上):岩波文庫,アンドレ・バザン,岩波書店,2015,9784003357811
映画とは何か(下):岩波文庫,アンドレ・バザン,岩波書店,2015,9784003357828

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

履修できるのは、フランス語圏文化学科の1、2年生のみ。但し、1、2年生以外でも「ゼミナール」を履修する資格のない学生は履修を認める。

講義コード	U360202101	科目ナンバリング	036A203	単位	4
講義名	フランス語圏文化入門(広域文化)				
英文科目名	Introduction to French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)				
担当者名	長井 文				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 1年～4年		
時間割	通年 水曜日 2時限 北1－201				

授業概要

本講義では20世紀前半のフランスの歴史と文化を中心に、文学作品や映像資料を参照しつつ、フランスの歴史と文化の変遷をたどる。

19世紀末から20世紀にかけて、近代化が一気に推し進められたフランスでは、現在のフランスの原形が形成された。本講義ではフランス近代化の歩みを学習し、さらに社会的状況と文化的営為の関連を考えていきたい。

なお、本講義の中心テーマは20世紀前半のフランスであるが、1901年を境に社会がそれ以前の社会と大きく変わったわけではない。そのため、本講義では20世紀前半の政体であった第3共和政に関しては、19世紀後半の発足時からその政策を詳細に見ていく。そして20世紀前半以前のフランスの歴史についても、前期3回までの授業で簡単な解説を行う。

到達目標

- ・フランスの歴史を通史で理解する。
- ・20世紀前半のフランスに生まれた芸術を知る。
- ・芸術作品や文化を、社会との関わりの中で考えられるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	フランス史①:近世から近代へ(フランス革命までのフランスの歴史)
第3回	フランス史②:波乱万丈の19世紀(フランス革命後から第3共和政成立まで)
第4回	第3共和政下のフランス社会:共和主義政策、「単一にして不可分な国」の創生
第5回	第3共和政下のフランス文化①:ベル・エポックの象徴としてのパリ万博
第6回	第3共和政下のフランス文化②:ジャポニスム、アール・ヌーヴォー、黒人芸術、キュビスム
第7回	第3共和政下のフランス文化③:大衆化する文化:キャバレー、ポスター、余暇
第8回	第3共和政下のフランス文化④:ベルエポック期の文学
第9回	第1次世界大戦①:東方問題、サラエボ事件
第10回	第1次世界大戦②:第1次世界大戦下のフランス
第11回	第1次世界大戦③:第1次世界大戦後のフランス
第12回	両大戦間のフランス:第1次世界大戦直後のフランス
第13回	ふりかえり
第14回	前期の復習、
第15回	両大戦間のフランス文化:シュルレアリスム、アメリカ文化の流入
第16回	両大戦間のヨーロッパ世界:世界恐慌、人民戦線、ファシズム台頭
第17回	第2次世界大戦①:奇妙な戦争、ダイナモ作戦、大脱出
第18回	第2次世界大戦②:ヴィシー政府、自由フランス
第19回	第2次世界大戦③:ショア、パリ解放、粛清
第20回	第2次世界大戦期のフランス文化:ヴィシー様式、コラボ文学、レジスタンス文学
第21回	第2次世界大戦後のフランス社会①:第4共和政下のフランス
第22回	第2次世界大戦後のフランス社会②:植民地問題、第5共和政へ
第23回	第2次世界大戦後のフランス文化①:実存主義文学、女流文学
第24回	第2次世界大戦後のフランス文化②:ヌーヴェル・ヴァーグ、ヌーヴォー・ロマン
第25回	理解度の確認
第26回	ふりかえり

授業計画コメント

授業計画はあくまでも予定であり、授業の進行によっては変更となる場合があります。

授業方法

対面授業の場合は講義形式、遠隔授業の場合はLMSを使用して授業を行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業で紹介された文献を読んだり、映像資料を確認する(1～2時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業中にリアクションペーパーを配布し、授業内容に関する感想や簡単な質問に答えてもらいます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内でコメントを行います。

教科書コメント

授業中は教師が用意した資料を使用します。原語がフランス語の資料を使用する際は、日本語訳を併記します。

参考文献

フランス史 下,福井憲彦＝編,山川出版社,2021,9784634423909

はじめて学ぶフランスの歴史と文化,上垣豊＝編,ミネルヴァ書房,2020,9784623087785

教養のフランス近現代史,杉本淑彦、竹中幸史＝編,ミネルヴァ書房,2015,9784623072712

フランス文化読本,鈴木雅生＝編,丸善出版,2014,9784621087466

よく分かるフランス近現代史,剣持久木,ミネルヴァ書房,2018,9784623082605

参考文献コメント

上記以外の参考文献は授業内で適宜紹介します。

履修上の注意

第1回授業には必ず出席してください。

その他

フランス語圏文化学科の1, 2年生のみ履修可。ただし、1, 2年生以外でも「ゼミナール」を履修する資格のない学生は履修を認めます。

講義コード	U360203101	科目ナンバリング	036A204	単位	4
講義名	フランス語圏文化入門(文学・思想)				
副題	フランス語圏の文学の歴史				
英文科目名	Introduction to French Language Cultures: (Literature & Theory)				
担当者名	岡部 杏子				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 1年～4年	
時間割	通年 金曜日 4時限 西2－501				

授業概要

中世から現代までのフランス語圏の文学の流れをたどりながら、代表的な作品の抜粋を読みます。受講者が、各々の興味にしたがって読書の幅を広げ、文学作品への理解を深めていく手がかかりとなることを期待します。文学作品を原作とした映画等を適宜紹介し、アダプテーションについても考察する機会を設けます。

到達目標

1. フランス語圏の文学史の大枠を捉え、自分の興味・関心に合った時代やジャンルの作品を見つけ出すことができる。
2. 文学史の背景となる歴史的・文化的知識を習得し、それを踏まえて作品を読解することができる。
3. 入門演習で習得した作法を用いて、論理的な文章でレポートを執筆することができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	中世(1):武勲詩と宮廷風騎士道物語
第3回	中世(2):寓意と笑いの文学、中世(3):叙情詩
第4回	16世紀(1):ルネサンス期の文学
第5回	16世紀(2):プレイヤッド派の詩人たち
第6回	16世紀(3):モラリストの文学
第7回	17世紀(1):バロックから古典主義へ
第8回	17世紀(2):古典主義の美学、17世紀(3):新旧論争
第9回	18世紀(1):啓蒙思想家たち
第10回	18世紀(2):演劇の転換期
第11回	18世紀(3):回想録小説、書簡体小説、自伝文学、詩
第12回	前期のまとめ
第13回	到達度の確認
第14回	19世紀(1):ロマン主義の先駆者たち
第15回	19世紀(2):ロマン主義の詩と散文
第16回	19世紀(3):近代小説の誕生
第17回	19世紀(4):自然主義の文学
第18回	19世紀(5):近代詩の誕生と発展
第19回	20世紀(1):20世紀小説の誕生
第20回	20世紀(2):ダダとシュルレアリスム
第21回	20世紀(3):大戦間の文学
第22回	20世紀(4):大戦後の文学(1)
第23回	20世紀(5):大戦後の文学(2)
第24回	21世紀 フランス語圏の文学
第25回	後期のまとめ
第26回	到達度の確認

授業計画コメント

授業計画に沿って進めていきますが、授業の進度や受講者の興味に応じて内容や順序を変更することがあります。

授業方法

講義形式でおこないます。

使用言語

日本語・英語

準備学習(予習・復習)

予習:事前に配布する資料を読み、自分の興味・関心にあう事柄について簡潔にまとめておくこと(60分)。
 復習:配布資料を読み直し、授業で学んだ作家に関連する書籍にできるだけ多く触れること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	前期レポート30%、後期レポート30%
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	40 %	リアクションペーパー
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

- ・レポート、リアクションペーパーの内容の充実度や文章表現の的確さ
- ・授業で扱った著者の別の作品や同時代の作家の作品への関心度の高さを評価のポイントとします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業の冒頭で、前回のリアクションペーパーを紹介、講評を加えてフィードバックします。

教科書

はじめて学ぶフランス文学史: はじめて学ぶ文学史3, 横山安由美・朝比奈美知子編著, ミネルヴァ書房, 2002, 9784623034901

教科書コメント

教科書に沿って進めますが、教員が作成した補足資料を配布する回もあります。

参考文献

- 新版 フランス文学史, 饗庭孝男ほか, 白水社, 1992, 9784560042861
- フランス文学史, 編田村毅・塩川徹也編, 東京大学出版会, 1995, 9784130820448
- フランス文学小事典, 岩根久ほか, 朝日出版社, 増補, 9784255011684
- 増補 フランス文学案内: 岩波文庫, 渡辺一夫・鈴木力衛編, 岩波書店, 1990

参考文献コメント

上記に挙げた文献になるべく多く触れておくことをおすすめします。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席すること。

その他

フランス語圏文化学科の1、2年生のみ履修可。ただし、1、2年生以外でも「ゼミナール」を履修する資格のない学生には履修を認めます。

講義コード	U360204101	科目ナンバリング	036A301	単位	4
講義名	フランス語圏文化講義(言語・翻訳)				
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Language & Translation)				
担当者名	本間 幸代				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 2年～4年		
時間割	通年 金曜日 2時限 中央－405				

授業概要

第1回目から第7回目までは、フランス語史の概観を通じフランス語の歴史的変化に関わってきた要因を確認する。次に、第8回目から第16回目にかけてフランス語の多様性や地域言語をめぐる問題について理解を深める。17回目以降は、類義表現の使い分け基準について様々な具体例の分析を通じて考えるなど、主に語や表現の意味に関わる分野を中心に扱う。

到達目標

フランス語の歴史的変化に関わった要因について理解できるようになる。
ある言語の多様性、および言語接触が引き起こす様々な問題や影響について理解できるようになる。
類義表現の使い分け基準を自力である程度まで明らかにすることができるようになる。
定説に対して批判的視点を持つことができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション、フランス語の進化過程① イントロダクション、フランス語の進化過程①
第2回	フランス語の進化過程②
第3回	フランス語の進化過程③
第4回	フランス語の進化過程④
第5回	フランス語の進化過程⑤
第6回	フランス語の進化過程⑥
第7回	フランス語の進化過程⑦
第8回	ロマンス諸語におけるフランス語の特異性①
第9回	ロマンス諸語におけるフランス語の特異性②
第10回	南仏語①
第11回	南仏語②
第12回	振り返り①
第13回	振り返り②
第14回	カナダのフランス語①
第15回	カナダのフランス語②
第16回	コルシカ語
第17回	語の多義性について①
第18回	語の多義性について②
第19回	類義表現の分析①
第20回	類義表現の分析②
第21回	類義表現の分析③
第22回	類義表現の分析④
第23回	類義表現の分析⑤
第24回	謎の文法規則を深堀りする
第25回	振り返り①
第26回	振り返り② 振り返り②

授業計画コメント

状況に応じて授業計画の一部に変更が加えられる可能性あり。

授業方法

対面での講義。また必要に応じてグループ・ディスカッションを行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

配布されたプリントがある場合は事前に読んでくること(1～2時間)。授業で指示を出します。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	100%	第12回目と第25回目の授業で実施。
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

評価方法に変更が加えられる場合は事前に告知します。

- ・欠席1回あたり総合点から1点減点。
- ・遅刻や早退等により授業を受けない時間が15分以上になる場合は欠席扱い。
- ・遅刻または早退1回あたり総合点から0.5点減点。15分以上の一時退出もこれに準ずる。
- ・8回以上欠席した場合、または3回以上連続して欠席した場合は単位取得不可(公欠の場合を除く)。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

中間テストの答案などは採点后返却します。

教科書

教科書コメント

必要に応じてプリントを配布する。

参考文献

- ロマンスという言葉,小林標,大阪公立大学共同出版会,初,2019,978-4907209957
- ヨーロッパとゲルマン部族国家: 文庫クセジュ, マガリ・クメール他, 白水社, 初, 2019, 978-4560510285
- フランス語史を学ぶ人のために, ピーター・リカード (伊藤忠夫、高橋秀雄訳), 世界思想社, 2, 1995, 978-4790705413
- 南仏と南仏語の話, 工藤進, 大学書林, 第3, 1995, 978-4475015707
- コルシカの形成と変容: 共和主義フランスから多元主義ヨーロッパへ, 長谷川 秀樹, 三元社, 初, 2002, 978-4883031016

参考文献コメント

必要に応じてプリントを配布する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

講義コード	U360205101	科目ナンバリング	036A302	単位	4
講義名	フランス語圏文化講義(舞台・映像)				
副題	フランス映画史入門				
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Theater & Film)				
担当者名	須藤 健太郎				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 2年～4年	
時間割	通年 木曜日 4時限 中央－302				

授業概要

映画生誕の地を誇るフランス。そこではどのような映画が作られ、どのような歴史が紡がれてきたのでしょうか。この授業では、毎回1本の作品を起点にしながらフランス映画史に親しんでいきます。前期はフランス映画の歴史を概観すること、後期はフランス映画史上で重要と思われる特定のテーマ(今年度はヌーヴェル・ヴァーグ)について考えることを目的とします。

到達目標

具体的な作品に立脚しながら、フランス映画の歴史についての基礎的な知識の習得を目指します。

授業内容

実施回	内容
第1回	前期ガイダンス
第2回	2000年代以降
第3回	1980～1990年代(1)
第4回	1980～1990年代(2)
第5回	1960～1970年代(1)
第6回	1960～1970年代(2)
第7回	1960～1970年代(3)
第8回	1930～1950年代(1)
第9回	1930～1950年代(2)
第10回	1930～1950年代(3)
第11回	サイレント映画(1)
第12回	サイレント映画(2)
第13回	初期映画
第14回	後期ガイダンス
第15回	ヌーヴェル・ヴァーグ(1)
第16回	ヌーヴェル・ヴァーグ(2)
第17回	ヌーヴェル・ヴァーグ(3)
第18回	ヌーヴェル・ヴァーグ(4)
第19回	ヌーヴェル・ヴァーグ(5)
第20回	ヌーヴェル・ヴァーグ(6)
第21回	ヌーヴェル・ヴァーグ(7)
第22回	ヌーヴェル・ヴァーグ(8)
第23回	ヌーヴェル・ヴァーグ(9)
第24回	ヌーヴェル・ヴァーグ(10)
第25回	ヌーヴェル・ヴァーグ(11)
第26回	ヌーヴェル・ヴァーグ(12)

授業計画コメント

上記の計画はあくまで目安であり、受講者の理解度等に合わせて随時調整されます。

授業方法

講義と演習を組み合わせながら進めます。受講者数に応じ、グループ発表を取り入れる可能性もあります。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習・復習については、授業内で指示します。あらかじめ課題作品を鑑賞してることが出席の条件です。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	70 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の配分は目安であり、すべての項目において意欲的に取り組むことが求められます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内で行います。

参考文献

- フランス映画史の誘惑, 中条省平, 集英社新書, 2003, 9784087201791
- 教養としてのフランス映画220選, 中条省平, 祥伝社黄金文庫, 2023, 9784396318352
- La Belle Histoire du cinéma français en 101 films, Michel Marie, Armand Colin, 2018, 9782200621599

参考文献コメント

その他、必要に応じて適宜指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

講義コード	U360206101	科目ナンバリング	036A303	単位	4
講義名	フランス語圏文化講義(広域文化)A				
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)				
担当者名	寺家村 博				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 2年～4年		
時間割	通年 木曜日 1時限 中央－404				

授業概要

このクラスでは1年を通してフランス語圏という概念がもつ意味、そしてフランス語圏の国や地域の中で何かを表現するということがどのような意味を持ちうるのかを探っていきます。具体的には西ヨーロッパ、北米、アフリカなどに点在するフランス語圏の国や地域(フランスを含む)の現状を理解するとともにそれぞれの文化的特徴をテキストの訳読、さらにグループワーク、個人あるいはグループ発表を通して探っていきます。そして最終的に受講学生がフランス語圏を通してフランスをあらたに捉え直すという新しい視座を獲得することを目指します。

到達目標

フランスを内からだけではなく、外からも同時に理解する視点を持つことができる。フランス語圏の国々の社会、文化、言語政策などに関する知識を得ることができる。さまざまなタイプのフランス語の文章を翻訳する機会ともなる。またフランスを含むフランス語圏の社会的事象に関してグループで考え、その考えをまとめていくことで「社会」について受講生それぞれが自分の捉え方を持てるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	フランス社会に関するDVDからフランスの「外」と「内」を考える1
第3回	フランス社会に関するDVDからフランスの「外」と「内」を考える2
第4回	バカロレアの論述問題を考える1
第5回	バカロレアの論述問題を考える2
第6回	PACSについて考える1
第7回	PACSについて考える2
第8回	フランコフォニーに関する文章を精読する1
第9回	フランコフォニーに関する文章を精読する2
第10回	フランコフォニーに関する文章を精読する3
第11回	フランコフォニーに関する文章を精読する4
第12回	フランコフォニーに関する文章を精読する5
第13回	前期まとめの課題またはテスト
第14回	フランス語圏地域に関するグループ発表(西ヨーロッパ1)
第15回	フランス語圏地域に関するグループ発表(西ヨーロッパ2)
第16回	フランス語圏地域に関するグループ発表(西ヨーロッパ3)
第17回	フランス語圏地域に関するグループ発表(北米1)
第18回	フランス語圏地域に関するグループ発表(北米2)
第19回	フランス語圏地域に関するグループ発表(北米3)
第20回	フランス語圏地域に関するグループ発表(アフリカ1)
第21回	フランス語圏地域に関するグループ発表(アフリカ2)
第22回	フランス語圏地域に関するグループ発表(アフリカ3)
第23回	フランス語圏地域に関するグループ発表(その他地域1)
第24回	フランス語圏地域に関するグループ発表(その他地域2)
第25回	フランス語圏地域に関するグループ発表(その他地域3)
第26回	後期まとめの課題またはテスト

授業計画コメント

各回の授業テーマは受講者数、授業形態によって、必ずしも上記記載通りに完全に実施できるとは限らない。

授業方法

原則演習形式で実施していく。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

次回の授業のために配布したプリントや与えられたテーマに関して予め予習しておくこと(約1時間)

個人やグループ発表の際にでた質問等に関してはよく調べて、次回にフィードバックすること(約45分程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート	10 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

グループワークや個人発表は重要な評価のポイントとなります。また同時に与えられた課題を的確にこなしていくことも大切になってきます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題を提出後、解説をして理解度を深める。

教科書コメント

プリントは授業時に配布するか、Web上にアップする。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席してください。
履修者制限あり、重複履修不可。

その他

連絡は対面時かWeb上でおこないます。

講義コード	U360206102	科目ナンバリング	036A303	単位	4
講義名	フランス語圏文化講義(広域文化)B				
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)				
担当者名	石井 咲				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 2年～4年		
時間割	通年 月曜日 4時限 西2-301				

授業概要

この授業では、主にフランスの20世紀文学と表象芸術の関係性について知見を深める。写真、広告、美術作品、バンド・デシネなどを具体的に取り上げながら、いかに社会がイメージを消費するのか、また人はいかにそれを味わうのか検討する。授業内では、さまざまなメディアの特徴について取り上げたテキストの抜粋を配布し、全体で訳読する。個人あるいはグループワークを通じて主体的にイメージ分析を行うことを目指す。

到達目標

フランス文学を視覚文化・芸術との結びつきから捉える視座を獲得することができる。イメージに含まれる意味やメッセージを読み取り批評的に分析することができる。さまざまな形式で書かれたフランス語の文章を翻訳することができる。グループワークをととして、フランス語とイメージの結びつきについて学生それぞれが自分の捉え方を持つことができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション: イメージとはなにか
第2回	20世紀フランス文学とイメージの関係性
第3回	技術の革新と写真というメディアについて考える
第4回	文学作品における写真: テキストの精読1
第5回	文学作品における写真: テキストの精読2
第6回	文学作品における写真: テキストの精読3
第7回	表象芸術の読解: 言語学と記号論
第8回	消費社会と広告について考える1
第9回	消費社会と広告について考える2
第10回	ファッション雑誌と意味の消費について考える
第11回	プロパガンダと写真について考える
第12回	学生による写真の分析
第13回	講義のまとめ、期末試験
第14回	フランス美術の変遷
第15回	文学作品における絵画1
第16回	文学作品における絵画2
第17回	絵画と現象学
第18回	文学とアダプテーション(絵本): テキストの精読1
第19回	文学とアダプテーション(アニメーション): テキストの精読2
第20回	文学とアダプテーション(バンド・デシネ): テキストの精読3
第21回	フレームからバンド・デシネについて考える
第22回	学生による発表
第23回	学生による発表
第24回	学生による発表
第25回	学生による発表
第26回	講義のまとめ、期末試験

授業計画コメント

それぞれの授業テーマは受講者数や授業の形態によって、必ずしも上記のとおりを実施できるとは限らない。

授業方法

学生には発言による参加を求めるため、原則として演習形式で実施する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業で配布したプリントをよく読み、また事前に課された宿題を行うこと(1時間)
授業内でポイントとなった点を振り返り、必要であればよく調べ、自分なりに捉え直しておくこと(30分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	20 %	
学年末試験(第2学期)	20 %	
中間テスト		
レポート	10 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

教室に「いる」だけでは参加とみなされない。発言やコメントペーパーでのフィードバックの取り組みが重要となることを留意してほしい。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内でフィードバックを行う。

教科書コメント

教員が作成したプリントを配布する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。
履修者制限あり、重複履修不可。

その他

教員の連絡先は第1回目の授業で周知する。

講義コード	U360207101	科目ナンバリング	036A304	単位	4
講義名	フランス語圏文化講義(文学・思想)				
副題	フランス文化と「ユダヤ人」				
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Literature & Theory)				
担当者名	鈴木 重周				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 2年～4年		
時間割	通年 木曜日 2時限 西1－301				

授業概要

この授業は、ヨーロッパ社会におけるマイノリティ(社会的少数者)としての「ユダヤ人」に着目し、かれらがどのような存在であったのかを、フランスを中心としたヨーロッパの芸術作品(文学、絵画、戯曲等)を通して考えることを目的とします。「ユダヤ人」について考えることは、歴史上常に周縁に追いやられてきた存在をめぐる差別の構造に気づくことでもあります。また、「ユダヤ人」が芸術作品の担い手となった時にどのような軋轢が起こったのかを学ぶことで、現代の日本に生きる私たちにとってもさまざまなマイノリティ(女性、性的少数者等)をめぐる問題が無関係ではないことを知ることができます。

到達目標

- ・ヨーロッパの「ユダヤ人」をめぐる歴史に関する基本的知識を身に付ける。
- ・文化表象におけるマイノリティをめぐる差別の構造を理解する。
- ・授業内容を自身の問題意識に引きつけコメントすることができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の進行や成績評価に関するガイダンス、1:ユダヤ人とは誰か
第2回	2:描かれるふたりの「ユダヤ人」:シェイクスピア『ヴェニス商人』
第3回	3:描かれるふたりの「ユダヤ人」:シェイクスピア『ヴェニス商人』
第4回	4:1492年とスペインの異端審問:ベラスケス「侍女たち」、ドストエフスキー「大審問官」
第5回	5:「美しきユダヤ女」としてのレベッカ:スコット『アイヴアンホー』
第6回	6:「美しきユダヤ女」としてのレベッカ:スコット『アイヴアンホー』
第7回	7:サロメという少女:モロー『出現』、フロベール「ヘロディアス」
第8回	8:サロメという少女:ワイルド『サロメ』、ピアズリー「クライマックス」
第9回	9:ある眼差しの誕生とオリエンタリズム:ドラクロワ『サルダナパールの死』、サイード『オリエンタリズム』
第10回	10:「具現化したユダヤ女」サラ・ベルナール:ミュシャ「ジズモンダ」
第11回	11:カミーユ・ピサロの選択:ピサロ『海辺でおしゃべりをするふたりの女性』
第12回	12:ベル・エポックの影としてのドレフュス事件:ポランスキー『オフィサー・アンド・スパイ』ドレフュス事件をいかに描くか:プルースト『失われた時を求めて』
第13回	理解度の確認
第14回	13:「私は告発する」:ゾラ『ルーゴン＝マッカール叢書』、「大統領フェリックス・フォール閣下への公開書簡」
第15回	14:ドレフュス事件をいかに描くか:プルースト『ゲルマントの方』
第16回	15:ドレフュス事件をいかに描くか:シュウオブ『少年十字軍』
第17回	16:ここではないどこかへ:シュウオブ『サモア書簡』、スティーヴンソン『宝島』
第18回	17:ここではないどこかへ:ゴーギャン『我々はどこから来たのか、我々は何者か、我々はどこに行くのか』、モーム『月と六ペンス』
第19回	18:戦争の時代とユダヤ人芸術家
第20回	19:戦争の時代とユダヤ人芸術家
第21回	20:祖父母をめぐる物語:ジャブロンカ『私にはいなかった祖父母の歴史』
第22回	21:祖父母をめぐる物語:スコヴロネク『私にぴったりの世界』
第23回	22:ヴィシー政権のユダヤ人狩り:ベレスト『ポストカード』
第24回	23:ヴィシー政権のユダヤ人狩り:ベレスト『ポストカード』
第25回	24:フランスにとどまったユダヤ人
第26回	理解度の確認

授業計画コメント

受講者の関心やアクチュアリティに応じて授業内容を変更や修正することがあります。

授業方法

対面で行います。基本的にはスライドを用いた講義ですが、できるかぎり受講者の皆さんとの対話形式で授業を進める予定です。毎授業後にレスポンスペーパー(300字程度)をLMSから提出してもらいます。必ず自筆ノートをとるようにしてください。理解度試験では自筆ノート(自分で書いたもの、コピペや切り貼り等不可)の持ち込みを可とする予定です。

使用言語
日本語

準備学習(予習・復習)

授業の配布資料に目を通し自筆ノートにまとめる。1時間程度。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果		
その他(備考欄を参照)	40 %	レスポンスペーパー

成績評価コメント

理由のない遅刻や欠席、居眠り、私語その他の授業に関係のない行為は減点の対象となります。
詳しくは初回授業でお話します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の授業開始時に前回授業についての受講者からのレスポンスペーパーにコメントする時間を設けます。

参考文献

はじめて学ぶフランス文学史,横山安由美ほか,ミネルヴァ書房,2002,9784623034909
フランス文学の楽しみかた,永井敦子ほか,ミネルヴァ書房,2021,9784623090761
篠沢フランス文学講義1-5,篠沢秀夫,大修館書店,1979,9784469250169
新しく学ぶフランス史,平野千果子,ミネルヴァ書房,2019,9784623085989
ユダヤとは何か,市川裕ほか,CCCメディアハウス,2012,9784484122380

参考文献コメント

購入の必要はありませんが、授業理解に役立ちますので書店や図書館で手に取ってみてください。他の文献に関しては授業内で随時紹介します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

その他

この授業で学ぶことが受講者自身の真摯な問題意識とつながることを期待しています。
フランス語圏文化学科の講義ですが、テーマに関心のある学生であれば学部学科を問わずどなたでも歓迎します。

講義コード	U360208101	科目ナンバリング	036A401	単位	4
講義名	フランス語圏文化演習(言語・翻訳)A				
副題	フランス文学(16世紀から21世紀まで)の名作を翻訳する				
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Language & Translation)				
担当者名	野村 昌代				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 3年～4年	
時間割	通年 木曜日 2時限 西1－310				

授業概要

フランス語圏文学(16世紀から21世紀まで)の名作の抜粋を各自で訳読します。作品は主に小説ですが、エッセイ、戯曲、詩も含まれます。授業中に動画、画像、音声資料を参照します。それぞれが各時代の代表的な作品ですので、作家、当時の社会、文化、文学潮流を概観することによって文学史としても学ぶことができます。既に「旧訳」と「新訳」が存在する作品の場合は、両者の比較を行うことによって「新訳」の意味を考える機会とします。

到達目標

- フランス語圏文学作品の訳読を通じて、
- 1) 2, 3年次までに習得した文法の知識を確認し、実際の作品を読むことができるようになること
 - 2) 文法の正確な知識に基づき、その応用として適切な翻訳を行う技術を身に着けること
 - 3) 作品の読解と作品の周辺の知識を得ることで、フランスの歴史、社会・文化史の知識を深めること

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション：授業の説明、既習文法の確認
第2回	16世紀 モンテーニュ「エッセー」
第3回	17世紀 パスカル「パンセ」
第4回	17世紀 モリエール「人間嫌い」
第5回	17世紀 ラファイエット夫人「クレヴの奥方」
第6回	18世紀 モンテスキュー「ペルシャ人の手紙」 / デイドロ「カンディード」
第7回	18世紀 ジャン・ジャック・ルソー「新エロイズ」
第8回	18世紀 ボーマルシェ「フィガロの結婚」
第9回	19世紀 スタンダール「赤と黒」
第10回	19世紀 バルザック「ゴリオ爺さん」
第11回	19世紀 フロベール「感情教育」
第12回	達成度の確認 古典作品の「旧訳」と「新訳」について
第13回	第1学期のまとめと総括
第14回	19世紀 ランボー「地獄の季節」
第15回	19世紀 ロスタン「シラノ・ド・ベルジュラック」
第16回	20世紀 プルースト「失われた時を求めて」
第17回	20世紀 サルトル「嘔吐」
第18回	20世紀 カミュ「異邦人」
第19回	20世紀 サガン「悲しみよこんにちは」
第20回	20世紀 デュラス「愛人」
第21回	20世紀 エルノー「場所」
第22回	20世紀 キニャール「めぐり逢う朝」
第23回	21世紀 ルメートル「その女アレックス」
第24回	21世紀 スリマニ「ヌヌ 完璧なベビーシッター」
第25回	達成度の確認 旧訳、新訳、新しい作品の翻訳
第26回	第2学期のまとめと総括

授業計画コメント

授業の各回の進捗状況、その他を考慮して内容、作品の変更があり得ます。
教科書にない作品については、教員が別途資料を配布します。

授業方法

対面で行います。(講義と演習)
受講者は、自分で調べた語彙、文法事項を含めて訳文を用意し、担当部分は授業でフランス語で音読し、訳文を発表します。その後、教員が質問、解説を行います。また検討すべき点については全員によるディスカッションをします。

使用言語
日本語

準備学習(予習・復習)

予習: 各回で指定されたテキストを和訳しておくこと、必要な語彙と文法事項を質問に備えてきちんと調べておくこと。テキスト朗読をし、事前に読みと発音の練習をしておくこと。(朗読の音源がある場合はそちらを聞いてください)(1時間半から2時間程度)
復習: 作成した訳文の修正、授業で解説した内容、語彙、文法事項を復習しノートに整理すること。正しい朗読と発音の復習をし、確認すること。(1時間半程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	
学年末試験(第2学期)	35 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	10 %	課題として不定期に行います。
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

正しい発音で音読できること。
正しい語彙を把握し、適切な文法事項を理解した上で和訳できていること。
教員の授業内容についての質問にできるだけ考えて真摯に回答すること。
訳文の検討についてのディスカッションに積極的に参加すること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内で課題・試験の解説を行います。

教科書

レクチュールの冒険－新編・フランス文学選一, 柏木隆雄、金崎春幸 他編, 朝日出版社, 初, 2005, 978-4255351704

参考文献

新フランス文法事典, 朝倉季雄、木下光一, 白水社, 2002, 978-4560000373
フランス語ハンドブック(新装版), 新倉俊一 ほか, 白水社, 2024, 978-4560099773
翻訳仏文法 上: ちくま学芸文庫, 鷺見洋一, 筑摩書房, 2003, 978-4480087911
翻訳仏文法 下: ちくま学芸文庫, 鷺見洋一, 筑摩書房, 2003, 978-4480087928

参考文献コメント

初級、中級文法を学んだ教科書を適宜持参し、授業中にも参照できるようにしておいてください。
仏和辞典は中辞典以上、仏仏辞典、類語辞典も必要に応じて各自で持参すると使い方の練習にもなりますし、有用です。
参考書を含め、授業中に使い方を説明します。
その他の参考資料も適宜授業中に紹介します。

履修上の注意

履修者数制限あり。(25名)
第一回めの授業には必ず参加すること。

その他

各回で指定されたテキストは、必ず自分で翻訳してから(予習)授業に臨んで下さい。授業中はその時間はありません。
発表担当とされた和訳がある場合は、極力出席してください。

講義コード	U360208102	科目ナンバリング	036A401	単位	4
講義名	フランス語圏文化演習(言語・翻訳)B				
副題	翻訳入門				
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Language & Translation)				
担当者名	横川 晶子				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 3年～4年	
時間割	通年 月曜日 5時限 西2－503				

授業概要

フランス語を日本語に翻訳するための知識と能力を習得するために、第1学期の授業では平易で短い文章を多く訳し、翻訳に関する基礎的な事柄を学習します。第2学期の授業では、フランスで実際に読まれている文章の日本語訳に取り組み、翻訳の実践を試みます。フランス語圏の最新の文化事情を反映するテキストの読解を通じて、フランス語圏のアクチュアリティーにも触れます。また翻訳研究に関して知っておくべき研究倫理についても学びます。

到達目標

フランス語と日本語の言語としての本質的な相違点を理解し、高度な読解と論述の能力、翻訳に必要な知識と実践的な技術を身につけます。また、単なる仏文和訳と翻訳はどう違うのか、良い訳文とはどのようなものか、文章の性格や目的によって訳がどう変わるのかなどを認識できるようになります。さらに、フランス語圏のテキスト読解を通じて国際的な視野を身につけます。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業内容及び授業の進め方について
第2回	人称代名詞、固有名詞、普通名詞
第3回	形容詞、副詞
第4回	前置詞(句)
第5回	動詞、関係代名詞
第6回	会話体の文章
第7回	説明の文章(1) 文体
第8回	説明の文章(2) 語彙
第9回	日記及び手紙の文章
第10回	児童書(1) 文体
第11回	児童書(2) 語彙
第12回	児童書(3) 描写
第13回	総括
第14回	第1学期レポートについて確認及び解説
第15回	平易な小説(1) 文体
第16回	平易な小説(2) 描写
第17回	料理のレシピ(1) 語彙
第18回	料理のレシピ(2) 表現
第19回	映画の字幕(1) 制作方法
第20回	映画の字幕(2) 実践
第21回	新聞・雑誌の文章(1) 語彙
第22回	新聞・雑誌の文章(2) 文体
第23回	現代小説(1) 人称及び時制
第24回	現代小説(2) 描写及び叙述
第25回	現代小説(3) 意識について
第26回	総括

授業方法

授業内容に沿ったフランス語のテキストを毎回配布し、訳の担当者を決めます。担当者は次の授業の前に訳文を作成して提出します。次の授業では講師がテキストについて説明をおこない、提出された訳文を検討するとともに、担当者や授業参加者の意見やコメントを求めます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

準備学習(予習・復習)

課題の訳を担当する学生は締切日までに訳文を作成して提出してください。担当でない学生も事前に訳文の作成を試みて下さい。(1時間～2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験は実施せず、平常点(授業内の課題による訳文提出)及びレポート(学期末に実施)により総合的に評価します。テキストの内容を正確に把握し、不明点を調査し、的確な日本語で訳文を作成しているかどうかを評価のポイントとします。また、指定された期限内に訳文を提出することも重視します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

平常の課題については毎回の授業で解説を行いコメントをします。第1学期のレポートについては、第2学期の初回授業で解説コメントを伝えます。

教科書コメント

毎回の授業でプリントを配布します。

参考文献コメント

必要に応じて教室で指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。第1回目の授業に必ず出席のこと。
履修希望者が25名を超えた場合、初回の授業において以下の優先順位で受講できる学生を決めます。
1. 「卒業翻訳」を選択した4年生。
2. 「言語・翻訳」コース所属の4年生。
3. 「言語・翻訳」コース所属で、「卒業研究(卒業論文・卒業翻訳)」を予定している3年次の学生。
4. その他の3、4年生。
※履修希望者が25名を超えた場合、4の中で抽選を行う。

その他

課題の訳文をLMSにより提出してもらうのでPC環境を整えておいて下さい。個別の連絡はメールで対応します。

講義コード	U3602081Z1	科目ナンバリング	036A401	単位	4
講義名	◇フランス語圏文化演習(言語・翻訳)				
副題	Production écrite				
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Language & Translation)				
担当者名	DERIBLE, Alberic Dany Ser				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 3年～4年	
時間割	通年 火曜日 4時限 中央－506				

授業概要

Chaque séance de cours se déroulera en trois temps. Les étudiants mèneront tout d’abord une analyse des caractéristiques d’un genre particulier d’écrit et s’exerceront ensuite à manipuler les outils linguistiques qui lui sont spécifiques. Dans un troisième et dernier temps, ils produiront, avec l’aide de l’enseignant et sur le modèle du texte analysé en première partie, un exemple de cet écrit. Seront abordés au cours du semestre divers média tels que : la presse, la littérature et la correspondance.

到達目標

Se familiariser avec les différents genres d’écrit. Analyser les structures spécifiques à chaque type et s’y conformer lors de la production, tant au niveau de la forme (vocabulaire thématique et structures grammaticales) que dans le fond (les actes de parole exprimés). Les étudiants s’essaieront ainsi aux techniques de l’écriture journalistique, littéraire et de la correspondance.

授業内容

実施回	内容
第1回	L’ARTICLE DE PRESSE
第2回	Présentation des concepts opératoires pour l’analyse de texte
第3回	Le texte argumentatif
第4回	Les connecteurs logiques
第5回	La structure d’un article de presse
第6回	Le courrier des lecteurs
第7回	L’expression de l’opinion, le subjonctif
第8回	Un article pour le journal de l’université
第9回	Répondre à un éditorial, faire un commentaire sur un sujet d’actualité
第10回	Évaluation 1, Production écrite : donner son opinion sur un forum en ligne
第11回	LE ROMAN
第12回	Le synopsis
第13回	Les caractéristiques du roman
第14回	L’incipit
第15回	La concordance des temps
第16回	L’extrait de roman
第17回	Le passé simple
第18回	Le discours rapporté
第19回	Les règles de la ponctuation française
第20回	Évaluation 2 : présenter son roman préféré (synopsis et opinion)
第21回	LES AUTRES GENRES D’ECRIT (LE RECIT AUTOBIOGRAPHIQUE, LA LETTRE, LE MAIL)
第22回	Le souvenir
第23回	Le journal de bord, le récit d’aventure
第24回	L’imparfait et le passé composé
第25回	Les formules de politesse de début et de fin de correspondance
第26回	Le mail : accepter l’invitation d’un(e) ami(e), demander des informations sur une sortie

授業方法

Les classes se dérouleront en présentiel. Après une première partie consacrée à l’analyse des différents types de texte, les étudiants seront guidés dans leur production personnelle d’un type particulier d’écrit.

使用言語

日本語・英語

準備学習(予習・復習)

Aucune préparation préalable n’est attendue des étudiants suivant ce cours, seules l’assiduité et la participation en classe sont obligatoires.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	90 %	3 évaluations par semestre de cours
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	10 %	Assiduité et participation en classe
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

L’évaluation portera principalement sur la production individuelle de trois types d’écrit : un texte argumentatif sur un sujet de société, le résumé et l’analyse littéraire et la correspondance officielle.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

L’enseignant donnera un feed-back général sur les productions écrites des étudiants à chaque séance et donnera des conseils individuels selon les besoins et les problèmes de chacun.

教科書コメント

Aucun manuel ne sera utilisé dans cette classe. L’enseignant fournira pour chaque séance une fiche de travail idoine.

履修上の注意

履修制限あり(25名)。/第1回目の授業に必ず出席すること。

講義コード	U3602081Z2	科目ナンバリング	036A401	単位	4
講義名	◇フランス語圏文化演習(言語・翻訳)				
副題	日常言語について考える				
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Language & Translation)				
担当者名	中尾 和美				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 3年～4年	
時間割	通年 火曜日 3時限 西2-405				

授業概要

言葉は力である。同じ伝達内容であっても、言葉の使われ方によって相手の反応も異なる。この授業では、主として語用論的な視点から、日常を取り巻くフランス語の言語表現の考察を深めたい。具体的には、日常的に使われる言語形式や表現を取り上げ、言葉の意味を文脈、発話状況から考える。また、フランス語学の短い論文を読むことで、言語学の第一歩となるような視点も養う。また、定期的に参加者の発表を予定し、それがレポート執筆につながるように指導する。学部と大学院の乗り合わせの授業なので、参加者の興味やレベルに応じて臨機応変に対応する予定である。

到達目標

フランス語の様々な表現を習得すること、言語分析を行うこと、ことば一般に対する興味を深めることを目指す。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の概要の説明
第2回	疑問文の形式
第3回	疑問文と言語行為
第4回	談話における疑問文
第5回	命令文の形式
第6回	命令文と言語行為
第7回	談話における命令文
第8回	人称代名詞 je 人称代名詞je
第9回	人称代名詞tu, vous
第10回	人称代名詞nous, on
第11回	授業発表
第12回	授業発表
第13回	授業発表
第14回	多義語、日本語との比較(1)
第15回	多義語、日本語との比較(2)
第16回	多義語、日本語との比較(3)
第17回	多義語とレトリック(1)
第18回	多義語とレトリック(2)
第19回	談話における多義語(1)
第20回	談話における多義語(2)
第21回	言葉の意味と発話状況(1)
第22回	言葉の意味と発話状況(2)
第23回	言葉の意味と発話状況(3)
第24回	授業発表
第25回	授業発表
第26回	授業発表

授業方法

フランス語について講義をすると同時に、言語学の論文を抜粋で読み、議論していく演習方式。参加者の発表も適宜行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

論文講読では、担当箇所を調べるだけでなく、全体を読んで内容を理解するようにしておくこと。授業発表では、他の参加者の発表について活発に議論することが求められる。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):(テキストの予習、授業における参画、発表。)単なる出席ではなく、授業への参加態度も成績評価の対象とする。

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業発表をレポート執筆に繋げる。

教科書コメント

授業で講読するテキストは、授業中に指示する。

参考文献

フランス語の発想,春木仁孝・岩男考哲,くろしお出版,2021
Les actes de langage dans le discours,C. Kerbrat-Orecchioni,Armand Colin,2008
Politeness Some Universals In Language Usage ,Brown & Levinson,Cambridge University Press,1987
Merci professeur,B.Cerquiglini,Bayard,2008
L’implication du récepteur dans les énoncés de l’espace public,F.Dhorne,Peter Lang,2024

参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示する。

履修上の注意

履修者制限あり(25名)。第1回目の授業に必ず出席すること

講義コード	U360209101	科目ナンバリング	036A402	単位	4
講義名	フランス語圏文化演習(舞台・映像)A				
副題	ポール・クローデルの演劇論を読む				
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Theater & Film)				
担当者名	岡村 正太郎				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	通年 火曜日 2時限 西2-304				

授業概要

劇作家・詩人のポール・クローデル(1868-1955)は、自らの戯曲をどのように上演するかという問題意識を常にもっていました。クローデルは19世紀末の象徴主義から出発しましたが、1910年代にはドイツ・ヘレラウの前衛芸術運動を視察したり、外交官であったことから1920年代の駐日大使時代には能をはじめとする日本の伝統演劇を実際に日本で観劇するなどしました。こうした経験に触発された彼の演劇理論・演劇構想は、ラジオや映画といった当時の最新のテクノロジーをも取り入れながら拡張し、独自の総合芸術論の様相を呈しながら、晩年にはジャン＝ルイ・バロウの演劇論と共鳴し、実際の上演に結実します。本授業では、クローデルの演劇に関するテキストを集めた『演劇についての私の考え(Mes idées sur le théâtre, 1966)』を講読していきます。またクローデル演劇を相対化するためにも、西洋演劇史一特に19世紀～20世紀のフランス演劇史一についての理解も深めていきます。

到達目標

- ・フランス語テキストの文構造やその意味するところを、辞書や文法書を使って読み解くことができるようになる。
- ・クローデル演劇に関する知識のみならず、西洋演劇の代表的な劇作家や戯曲、演出家についての知識も身に着ける。
- ・演劇を考えるときの軸を作り、今日我々が観る芝居についても論じることができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション／西洋演劇史概説①
第2回	西洋演劇史概説②／ポール・クローデル概説
第3回	Préface(1)
第4回	Préface(2)
第5回	Préface(3)
第6回	Premiers contacts avec le théâtre : L'Annonce faite à Marie au théâtre de l'Œuvre
第7回	La séduction d'hellerau
第8回	Un rêve : L'Orestie au Théâtre d'Orange
第9回	Une mise en scène pour Protée
第10回	Nijinsky : La découverte de la danse
第11回	Le théâtre japonais(1)
第12回	Le théâtre japonais(2)
第13回	Le théâtre japonais(3)／第1学期のまとめ
第14回	Le soulier de satin
第15回	L'acteur double : Sous le rempart d'athènes
第16回	Le drame et la musique : Le livre de Christophe Colomb(1)
第17回	Le drame et la musique : Le livre de Christophe Colomb(2)
第18回	Un essai d'adaptation du Nô japonais : Le Festin de la Sagesse(1)
第19回	Un essai d'adaptation du Nô japonais : Le Festin de la Sagesse(2)
第20回	Théâtre et radio
第21回	Le soulier de Satin à la Comédie Française(1)
第22回	Le soulier de Satin à la Comédie Française(2)
第23回	Le théâtre à l'état naissant(1)
第24回	Le théâtre à l'état naissant(2)
第25回	Derniers propos sur le théâtre(1)
第26回	Derniers propos sur le théâtre(2)／第2学期のまとめ

授業計画コメント

授業計画は、進度や受講学生の興味関心によって変更になる場合があります。

授業方法

演習。担当学生の訳読を中心に授業を進めます。範囲、分量などは授業内で都度決めていきます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

担当学生は、担当箇所を訳出してくる。それ以外の学生もしっかりと予習をし、議論に参加できるようにしておく。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

各学期ごとにレポートを課します(第1学期:25%、第2学期:25%)。
授業への積極的な参加を求めます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

フィードバック) 第1学期レポートについては第2学期最初の授業で行います。第2学期レポートについてはMoodleを使って行います。

教科書

Mes idées sur le théâtre:nrf,Paul Claudel,Gallimard,1966,978-2-07-021543-0

参考文献

繻子の靴:岩波文庫,ポール・クロードル,岩波書店,2005,4-00-375041-1

参考文献コメント

その他の参考文献は都度授業内で示します。

履修上の注意

履修者制限あり(25名)。第1回目の授業に必ず出席すること。

その他

教員への連絡方法は初回授業時に指示します。

講義コード	U360209102	科目ナンバリング	036A402	単位	4
講義名	フランス語圏文化演習(舞台・映像)B				
副題	フランス語圏の舞台芸術について語ってみる				
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Theater & Film)				
担当者名	横山 義志				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	通年 金曜日 3時限 北1－305				

授業概要

日本ではフランス語圏の舞台芸術(演劇、バレエ、オペラ…)に触れる機会は少ないかもしれませんが。でも、みなさんが学んでいるフランス語やフランス文学を通じて知ってみれば、フランスやフランス語圏の国に行ったときに、劇場やフェスティバルなどに行って、もっと楽しむことができるはずです。この授業では、みなさんに自分で調べて、フランスやフランス語圏の舞台芸術について語ってもらいます。今起きていることについてでも、歴史的な出来事でも、特定の作家や作品についてでもかまいません。そして他の参加者の意見を聞きたい話題を選んで、参加者とディスカッションをしていただきます。自分の興味にどこまで他の参加者を巻き込むことができるか、試してみましょう。きっと社会に出てからも役に立つはずです。

講師は静岡の国際演劇祭で働き、来年度はそれぞれフランス・ケベック州を代表する舞台芸術祭であるアヴィニオン演劇祭、フェスティバル・トランスアメリークを視察予定なので、その話もする予定です。

関連作品の観劇やゲストトークも予定しています。舞台芸術の現場に興味がある方の参加も歓迎いたします。

発表トピック例:アヴィニオン演劇祭と地域分散化、フェスティバル・トランスアメリークとカナダ先住民の舞台芸術、太陽劇団、ピーター・ブルック、コメディ＝フランセーズ、エメ・セゼールとクレオール演劇、ベケットと不条理演劇、メーテルリンクと象徴主義演劇、ゾラと自然主義演劇、ヴィクトル・ユゴーとロマン主義演劇、オランブ＝ド＝グージュと「女性の権利宣言」、ロマンティック・バレエ、ノヴェールのバレエ改革、ボーマルシェの喜劇、マリヴォアの喜劇、ディドロと市民劇、ラモーのオペラ、リュリのオペラ、オペラ＝バレエ、コルネイユ／ラシーヌと古典主義悲劇、モリエールと古典主義喜劇、コメディ＝バレエ、『王妃のバレエ・コミック』と宮廷バレエ、ジョデルと人文主義演劇、オテル・ド・ブルゴーニュ劇場、フランス中世の笑劇、ジョン・グールド、『アダム劇』と典礼劇…

到達目標

- ・フランス舞台芸術史の概要を知ること
- ・フランス語のテキストを読解するためのツールを使いこなせるようになること。
- ・テキストと実際の作品との関係について考えられるようになること。
- ・資料を使いこなし、説得力のある発表を行えるようになること。
- ・参加者にとって有益な形でディスカッションを行う能力を身につけること。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	フランス語圏現代演劇について
第3回	フィールドワーク
第4回	フィールドワーク
第5回	ディスカッション(フランス語圏現代演劇について)
第6回	発表
第7回	フェスティバル・トランスアメリークについて
第8回	発表
第9回	発表
第10回	発表
第11回	発表
第12回	まとめ
第13回	アヴィニオン演劇祭について
第14回	発表
第15回	発表
第16回	発表
第17回	発表
第18回	発表
第19回	発表
第20回	発表
第21回	発表
第22回	発表
第23回	発表
第24回	発表
第25回	発表

授業計画コメント

参加者からの提案、ゲストの都合や講師の都合等により、授業の内容や日程が変更になる可能性があります(今のところ、5月にフェスティバル・トランスアメリーク、7月にアヴィニョン演劇祭を視察の予定です)。

授業方法

基本的には対面授業・演習形式ですが、都合によりzoom等を使って遠隔授業を行う可能性もあります。また、遠隔からゲストトーク等を行う可能性もあります。ゲストをお招きする際には事前に参加者から質問を募集し、ゲストにお伺いしていきます。フランス語話者のゲストには、フランス語で質問していただきます。
発表は複数人のグループで行ってもかまいません。
フランス語資料やフランス語話者に触れる機会をなるべく増やし、参加者のモチベーションや理解度に応じて、授業の一部をフランス語で行うかもしれません。

使用言語

日本語・英語

準備学習(予習・復習)

毎回1時間程度、資料を読んで質問・コメントを準備するなど、準備をしてきていただく必要があります。発表時などには数時間の準備を想定してください。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	学期末・学年末小レポート
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	40 %	授業への参加度(年間で評価)
その他(備考欄を参照)	40 %	発表(年2回程度)

成績評価コメント

出席だけでなく、質問や発表へのコメント、ディスカッションへの参加など、授業への参加を重視します(発言できない事情などあればおっしゃってください)。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

口頭やメール等でフィードバックします。

教科書コメント

必要な資料は授業内で配付します。

参考文献

フランス演劇史概説 新装版,岩瀬孝他,早稲田大学出版部,1999,978-4657995216

演劇の歴史:文庫クセジュ,アラン・ヴィアラ,白水社,2008,978-4-560-50923-4

ケベック発 パフォーミングアーツの未来形 ダンス・演劇・映画・音楽・サーカス・マルチディシプリナリーアート,西田留美可他,三元社,2003,978-4-88303-119-1

バレエの世界史:中公新書,海野敏,中央公論新社,2023,978-4-12-102745-0

フランス・オペラの魅惑 舞台芸術論のための覚え書き,澤田 肇,ぎょうせい,2013,978-4324094037

参考文献コメント

発表に際しては書籍や専門誌の利用を推奨します。
フランス語圏文化学科の演習ですので、必ずフランス語のテキストを一つ以上参照・引用してください。
翻訳は必ずご自身で辞書を引いて行ってください。機械翻訳をそのまま使っているように思われたら、減点します。

履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。
第一回目の授業に必ず出席すること。
観劇あるいは映像鑑賞も行う予定です。
テーマやスケジュールはゲストの都合等、状況に応じて変更の可能性がありますのでご了承ください。

その他

相談などあればお気軽にSlackやメールでご連絡ください。授業の前後に時間を取ることもできます。

講義コード	U3602091Z1	科目ナンバリング	036A402	単位	4
講義名	◇フランス語圏文化演習(舞台・映像)				
副題	Tragédies bibliques (Suite)				
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Theater & Film)				
担当者名	MARE, Thierry				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 3年～4年	
時間割	通年 木曜日 3時限 西1－210				

授業概要

Après 『Abraham sacrificant』 de Théodore de Bèze (1550), que nous avons lu ensemble, nous poursuivrons la lecture commrencée des 『Juifves』 (1583) de Robert Garnier, avant de nous attaquer aux deux pièces écrites par Racine pour le Collège des Jeunes Filles de Saint-Cyr, en réponse à une commande de Mme de Maintenon : 『Esther』 (1689) et 『Athalie』 (1691), afin de compléter notre tour d’horizon des tragédies composées sur le modèle classique (c’est-à-dire inspiré du théâtre grec et des idées d’Aristote) et tirant leur sujet de la Bible.

到達目標

Notre étude portera à la fois sur des questions de langue, de dramaturgie et de versification. Contrairement à l’usage établi au XVIIème siècle, ces pièces ont en commun d’intercaler les scènes dramatiques en alexandrins par des chœurs lyriques en formes strophiques. Je m’efforcerai à chaque séance de régler les problèmes linguistiques que le moyen français (pour Garnier) et même par la langue classique pourraient poser à des étudiants exclusivement habitués aux usages contemporains.

授業内容

実施回	内容
第1回	Lecture et commentaire des 『Juifves』 (1)
第2回	Lecture et commentaire des 『Juifves』 (2)
第3回	Lecture et commentaire des 『Juifves』 (3)
第4回	Lecture et commentaire des 『Juifves』 (4)
第5回	Lecture et commentaire des 『Juifves』 (5)
第6回	Lecture et commentaire des 『Juifves』 (6)
第7回	Lecture et commentaire des 『Juifves』 (7)
第8回	Lecture et commentaire d’『Esther』 (1)
第9回	Lecture et commentaire d’『Esther』 (2)
第10回	Lecture et commentaire d’『Esther』 (3)
第11回	Lecture et commentaire d’『Esther』 (4)
第12回	Lecture et commentaire d’『Esther』 (5)
第13回	Lecture et commentaire d’『Esther』 (6)
第14回	Lecture et commentaire d’『Esther』 (7)
第15回	Lecture et commentaire d’『Esther』 (8)
第16回	Lecture et commentaire d’『Athalie』 (1)
第17回	Lecture et commentaire d’『Athalie』 (2)
第18回	Lecture et commentaire d’『Athalie』 (3)
第19回	Lecture et commentaire d’『Athalie』 (4)
第20回	Lecture et commentaire d’『Athalie』 (5)
第21回	Lecture et commentaire d’『Athalie』 (6)
第22回	Lecture et commentaire d’『Athalie』 (7)
第23回	Lecture et commentaire d’『Athalie』 (8)
第24回	Lecture et commentaire d’『Athalie』 (9)
第25回	Lecture et commentaire d’『Athalie』 (10)
第26回	Conclusion générale

授業計画コメント

Ce plan doit être envisagé avec souplesse : il pourra arriver, en fonction des besoins, que nous passions plus de temps que prévu sur un texte. Tout dépendra (aussi) de la bonne volonté des étudiants.

授業方法

Je fournirais des explications chaque fois que le besoin s’en fera sentir... Et même au-delà des besoins exprimés, je le crains !

使用言語

日本語・英語

準備学習(予習・復習)

準備学習(予習・復習)

La préparation du texte demandera l’usage d’un dictionnaire spécialisé : celui de Huguet, pour les textes du XVIème siècle, celui de Furetière pour le XVIIème siècle.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	60 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	Traductions proposées

成績評価コメント

Le but ultime de nos séances étant d’établir une traduction de ces textes difficiles, les propositions des étudiants seront non seulement bien accueillies mais impérativement souhaitées !

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Il va de soi que j’aiderai, dans la mesure de mes moyens, les étudiants à surmonter les difficultés qu’ils rencontrent. Un cours (en principe) est un dialogue constant.

教科書

- Les Juives:Folio Théâtre,Robert Garnier,Gallimard,1,2007,978-2070304967
- Esther:Folio Théâtre,Jean Racine,Gallimard,1,2007
- Athalie:Univers des Lettres,Jean Racine,Bordas,1,978-2040112592

教科書コメント

N’importe quelle autre édition me convient, pourvu qu’elle contienne le texte intégral.

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360210101	科目ナンバリング	036A403	単位	4
講義名	フランス語圏文化演習(広域文化)A				
副題	フランス人が見た日本				
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)				
担当者名	上杉 未央				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	通年 火曜日 4時限 北1－306				

授業概要

フランスと日本の文化交流の歴史を踏まえ、19世紀後半以降、「ジャポニスム」という文脈で、いかに「日本」という国が語られ受容され、あるいは誤解されてきたかを、近現代の文学作品を通して学びます。日本人の心性、宗教心、文芸、芸術が語られるテキストを主に取り上げます。異文化の摂取、受容の過程、あるいは誤解がどのように生じるかを学びます。

到達目標

- ・フランス語のテキストを、辞書や文法に関する知識を駆使しながら読み解くことができる。
- ・わたしたちの目には当然のもの、馴染みがあるように思われるものを、ヨーロッパの人たちがどのように捉え、またそれを表現しようとしたのか、いろいろな角度から検証し、自分の文化、他者の文化について相対化する視点を獲得する。
- ・異文化、そして、われわれの思考に形を与える言語そのものについて考察を深める。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス、日仏の文化交流史概観
第2回	ピエール・ロティ『秋の日本』(1)
第3回	ピエール・ロティ『秋の日本』(2)
第4回	ピエール・ロティ『お菊さん』(1)
第5回	ピエール・ロティ『お菊さん』(2)
第6回	舞台芸術における日本
第7回	ポール・クローデル「日本人の心を見る目」(1)
第8回	ポール・クローデル「日本人の心を見る目」(2)
第9回	ポール・クローデル「日本人の心を見る目」(3)
第10回	ポール・クローデル「日本人の心を見る目」(4)
第11回	ポール・クローデル「自然と道徳」
第12回	ポール・クローデル「明治」
第13回	春学期の振り返り
第14回	ポール・クローデル「力士の構え」
第15回	学生の発表(夏季課題に関する発表)
第16回	学生の発表(夏季課題に関する発表)
第17回	ポール・クローデル『繻子の靴』4日目2場(1)
第18回	ポール・クローデル『繻子の靴』4日目2場(2)
第19回	ポール・クローデル『百扇帖』
第20回	ロラン・バルト“Centre-ville, centre vide” (1)
第21回	ロラン・バルト“Centre-ville, centre vide” (1)
第22回	ロラン・バルト“L’incident” (1)
第23回	ロラン・バルト“L’incident” (2)
第24回	バルト以降の日本論(1)
第25回	バルト以降の日本論(2)
第26回	教場内試験

授業計画コメント

受講者数、進度に応じて内容に変更が生じる可能性があります。最大受講者数を25名程度とするため、登録者数によっては抽選を行う可能性があります。初回の授業には必ず出席してください。

授業方法

対面授業を実施します。事前に担当を決め、担当者には指定した箇所のフランス語を音読、その後に日本語訳を検討する演習授業を実施します。講読した箇所について、リアクションペーパーを課す回があります。また、夏季課題としてフランス人の日本論をめぐるレポートを課します。秋学期、自分が取り組んだことについて発表していただく授業回があります(受講人数によっては全員の発表とはならない可能性があります)。

使用言語
日本語・英語

準備学習(予習・復習)
訳読担当者は、指定された箇所の訳文を用意してきてください。担当になっていなくても、授業で読むテキストを事前に読み込んできてください。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	35 %	
中間テスト		
レポート	35 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	15 %	
その他(備考欄を参照)	15 %	出席点(リアクションペーパー記入)

成績評価コメント
各学期、3分の1以上欠席した場合は単位を習得できません。(各学期、許容される欠席回数は4回まで。なお、欠席回数が4回未満でも、欠席した回数分、出席点より減点します)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
授業時間内に解説を行う他、個別にコメントを返します。

教科書コメント
プリントを配布します。

参考文献
ポール・クロードルの日本: 〈詩人大使〉が見た大正, 中條忍, 法政大学出版局, 2018, 978-4588326042
テキストとしての日本, モーリス・パンゲ, 筑摩書房, 1987, 978-4480841797

参考文献コメント
初回授業時に別途指示します。

履修上の注意
履修人数制限あり(25名)。初回の授業に参加すること。
配布したプリント、辞書を忘れずに持参してください。

その他
何か連絡がある場合は教員のメールアドレスまでご連絡ください。

講義コード	U360210102	科目ナンバリング	036A403	単位	4
講義名	フランス語圏文化演習(広域文化)B				
副題	都市の経験と文学・美術				
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)				
担当者名	彦江 智弘				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	通年 金曜日 2時限 北1－406				

授業概要

文学や芸術から都市に取り組むことには今日的な意義があるのではないか——これが本授業の出発点となる作業仮説である。現代社会は「ノイズが除去された知識」(三宅香帆)である「情報」が溢れかえっている。このように組織された言葉や映像は例えばタイパ、コスパ、テンプレなどといったレッテルを貼られ主にSNSを経由して日々私たちをとり囲んでいるが、こういった傾向は私たちの都市の経験にも見出されるのではないだろうか。実際、都市の風景はテンプレ的な既視感に満ちており、私たちはなんの迂回も経ずに一定の消費行動へと誘導されはしないだろうか。けれども都市とは本来ノイズにあふれた多層的な社会空間であるはずである。その一方で、文学作品が多層的な読解を誘発する豊かな言説空間であるとしたら、そこには情報ではなくノイズが溢れているからではないだろうか。だとすれば文学作品にふれるとは、タイパ、コスパ、テンプレといった極度に切り詰められた情報としての言説の対極にある経験であり、その意味で本来の都市の経験とも通底するはずだ。本講義では、このような観点から都市の問題を概括するとともに文学作品や芸術作品を通じて都市の問題を検討し、私たちの眼の前で変化していく都市を批評的に捉える視座を得ることを目指す。

前期では理論的考察を交えながら都市の様々な問題を概括し、後期では19世紀から20世紀初頭にかけての時代を舞台に文学を始めとする芸術作品がいかにパリを捉えてきたのかを検討する。その際に前期で取り上げた様々なテーマをこれに関連付けていく。様々な文献を取り上げる予定だが、ジャック・ドンズロ、デヴィッド・ハーヴェイ、ロラン・バルト、ヴァルター・ベンヤミン、山田登世子などの論考を基に議論を進める予定。

到達目標

①様々な都市論について発表・議論することで都市を考察するための基礎的な分析力を身につけることができる。②文学作品や芸術作品を都市という観点から読み解くスキルを習得し、自分たちが生きる都市を批判的に検討することができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	都市をいかに捉えるか？
第3回	都市の経験①
第4回	都市の経験②
第5回	都市と排除①
第6回	都市と排除②
第7回	都市への権利
第8回	都市といかに出会い直すか
第9回	都市を聴く技術
第10回	都市を歩く①
第11回	都市を歩く②
第12回	受講者による研究発表
第13回	振り返り
第14回	イントロダクション
第15回	フランスにおける都市の問題
第16回	近代パリの成立
第17回	文学とパリ①
第18回	文学とパリ②
第19回	文学とパリ③
第20回	文学とパリ④
第21回	美術とパリ①
第22回	美術とパリ②
第23回	美術とパリ③
第24回	写真とパリ
第25回	受講者による研究発表
第26回	総括

授業計画コメント

授業の進捗状況、参加者の関心に応じて適宜授業内容を変更することがあります。

授業方法

参加者の発表を起点とする討論形式を中心に、適宜講義を交えて授業を進めます。

使用言語
日本語

準備学習(予習・復習)

授業前に指定された資料を読み込み、これまでの授業内容との関連に注意しながら議論の際のコメント等をまとめておく(1～2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

議論を毎回取り上げる文献を読み込んだ上で、事前にコメントを提出してもらう予定です。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

演習形式の授業のため授業内でフィードバックを行う。

参考文献

リゾート世紀末,山田登世子,筑摩書房,1998,9784480857576
ウォークス：歩くこと of 精神史,レベッカ・ソルニット,左右社,2017,9784865281385
反乱する都市：資本のアーバナイゼーションと都市の再創造,デヴィッド・ハーヴェイ,作品社,2013,9784861824203
都市が壊れるとき：郊外の危機に対応できるのはどのような政治か,ジャック・ドンズロ,人文書院,2012,9784409230480
東京裏返し 都心・再開発編,吉見俊哉,集英社,2024,9784087213430

参考文献コメント

上記以外は適宜授業で指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。第1回目の授業に必ず出席すること。

その他

演習形式の授業のため、参加者は資料作りや適切な発表の進め方、また議論における建設的なコメントの作法を実践的に身につけるといふ観点から積極的な態度で授業に臨むことが求められます。

講義コード	U360210103	科目ナンバリング	036A403	単位	4
講義名	フランス語圏文化演習(広域文化)C				
副題	シュルレアリスムと20世紀フランス				
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)				
担当者名	進藤 久乃				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	通年 木曜日 2時限 西2－504				

授業概要

シュルレアリスムは、20世紀最大の文学・芸術運動といわれている。アンドレ・ブルトン、ルイ・アラゴン、ロベール・デスノスなどが多くの詩や散文作品を残し、マックス・エルンスト、ルネ・マグリットの絵画作品も広く知られている。

一方、シュルレアリストらの活動は、狭義の文学・芸術作品の制作にとどまるものではなく、自身の生を巻き込み、現実に影響を与えようとするものでもあった。そのため彼らは、社会的な事件に反応して多くのビラや宣言を発表し、大小さまざまな論争を引き起こした。

本演習では、シュルレアリスムのビラ、公開書簡、宣言などをその背景を学びながら訳読する。彼らが芸術的な問いをいかに現実の諸問題と結びつけようとしたかを知ること、シュルレアリスムの作品をより多様な視点から考察することができる。

到達目標

- ・シュルレアリスムとその時代背景について理解を深めながら、フランス語のテキストを正確に読むことができるようになる。
- ・文学・芸術の独立性と社会との関わりについて考察し、興味のある作家や芸術家の作品について、複数の視点から分析することができるようになる。
- ・論文執筆の形式を守りながらレポートを作成することができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	シュルレアリスム概説
第3回	反抗の時代(1):ダダとの決別と「死骸」(1924)
第4回	反抗の時代(2):「1925年1月27日の宣言」、「まず、そして常に革命を！」(1925)、公開書簡
第5回	共産党への接近:ピエール・ナヴィル『革命と知識人』(1926) (1)
第6回	共産党への接近:ピエール・ナヴィル『革命と知識人』(1926) (2)
第7回	共産党への接近:ピエール・ナヴィル『革命と知識人』(1926) (3)
第8回	ナヴィルへの回答:「正当防衛」(1926) (1)
第9回	ナヴィルへの回答:「正当防衛」(1926) (2)
第10回	共産党への入党:「白昼に」(1927)、「深夜、あるいはシュルレアリスムのブラフ」(1927)
第11回	三面記事とスキャンダル:「恋に手を出すな」(1927)
第12回	三面記事とスキャンダル:「恋に手を出すな」(1927)
第13回	第1学期のまとめ
第14回	前期の振り返りと後期ガイダンス、シュルレアリスムについての補足説明
第15回	メンバーとの決別:『シュルレアリスム第二宣言』とバタイユらによる「死骸」(1930)
第16回	メンバーとの決別:『シュルレアリスム第二宣言』とバタイユらによる「死骸」(1930)
第17回	非西欧文化への眼差し:「植民地博へ行くな」(1931)
第18回	アラゴン事件と「詩の貧困」(1932)
第19回	アラゴン事件と「詩の貧困」(1932)
第20回	ファシズムへの反抗:コントル・アタック
第21回	ファシズムへの反抗:コントル・アタック
第22回	芸術の独立性:「独立革命芸術のために」(1938)
第23回	芸術の独立性:「独立革命芸術のために」(1938)
第24回	第二次世界大戦直後の論争:バンジャマン・ペレ「詩人の不名誉」(1945)
第25回	第二次世界大戦直後の論争:バンジャマン・ペレ「詩人の不名誉」(1945)
第26回	第2学期のまとめ

授業計画コメント

各項目の背景について説明した後で、フランス語のテキストを訳読する。指定された部分について、必ず予習をしてくること。

上記の授業計画は目安であり、履修者の興味や関心に応じて計画を変更することがある。

授業方法

対面の演習形式で行う。

使用言語
日本語・英語

準備学習(予習・復習)

授業内で扱う予定のフランス語のテキストを辞書をひきながら読み、わからない箇所をチェックしてくる(1時間以上)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	第1学期・2学期にレポートを課す
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

- ・演習形式の授業なので、参加者は十分に予習をした上で積極的に授業に参加することが求められる。あてられた際にまったく予習していない場合や「わかりません」としか答えない場合は参加しているとはみなさない。
- ・レポートの詳細は授業内で伝えるが、授業内容を踏まえたものとする予定である。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

前期レポートに関しては、授業内でフィードバックを行い、希望者には個別にフィードバックを行う。
後期レポートに関しては、コメントをつけて返却する予定である。

教科書コメント

プリントを配布する。

参考文献

- Tracts surréalistes et déclarations collectives : tome 1, José Pierre (éd.), Le terrain vague, 1980
Tracts surréalistes et déclarations collectives : tome 2, José Pierre (éd.), Le terrain vague, 1982
シュルレアリスムの資料: シュルレアリスム読本4, 思潮社, 1981
Histoire du surréalisme : suivie de documents surréalistes, Maurice Nadeau, Seuil, 1964

参考文献コメント

参考文献に挙げたフランス語の書籍には、授業内で扱う予定のシュルレアリスムのテキストが収録されている。すべてを扱う時間的余裕はないので、購入する必要はない。授業で扱うテキスト以外も読みたい場合は図書館などで閲覧すること。

履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360210104	科目ナンバリング	036A403	単位	4
講義名	フランス語圏文化演習(広域文化)D				
副題	文学とテクノロジー:ジュール・ヴェルヌの冒険小説を読む				
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)				
担当者名	岡部 杏子				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	通年 水曜日 2時限 西2-403				

授業概要

19世紀に活躍した作家ジュール・ヴェルヌの『征服者ロビュール』(Robur, Le Conquerant)を読解し、語学力の向上を図ります。気球や蒸気船に関する当時の知見に触れながら、冒険小説の流行という事象や、文学とテクノロジーの関係を考察します。関連の近い映像作品も適宜紹介します。

到達目標

- 19世紀フランスの歴史、社会、文化についての知識を深め、その特色について自らの言葉で述べることができる。
- これまでに学んだ文法の知識に基づいて読解し、内容を理解することができる。
- 問いを立てて、論理的な文章でレポートを執筆することができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス、イントロダクション ジュール・ヴェルヌの作品世界
第2回	Robur, Le Conquerant講読: 第1章(1)
第3回	Robur, Le Conquerant講読: 第1章(2)
第4回	Robur, Le Conquerant講読: 第2章(1)
第5回	Robur, Le Conquerant講読: 第2章(2)
第6回	Robur, Le Conquerant講読: 第3章(1)
第7回	Robur, Le Conquerant講読: 第3章(2)
第8回	Robur, Le Conquerant講読: 第4章(1)
第9回	Robur, Le Conquerant講読: 第4章(2)
第10回	Robur, Le Conquerant講読: 第5章(1)
第11回	Robur, Le Conquerant講読: 第5章(2)
第12回	到達度の確認
第13回	まとめと総括
第14回	Robur, Le Conquerant講読: 第6章
第15回	Robur, Le Conquerant講読: 第7章
第16回	Robur, Le Conquerant講読: 第8章
第17回	Robur, Le Conquerant講読: 第9章
第18回	Robur, Le Conquerant講読: 第10章
第19回	Robur, Le Conquerant講読: 第11章
第20回	Robur, Le Conquerant講読: 第12章
第21回	Robur, Le Conquerant講読: 第13章
第22回	Robur, Le Conquerant講読: 第14章
第23回	Robur, Le Conquerant講読: 第15章
第24回	Robur, Le Conquerant講読: 第16章
第25回	到達度の確認
第26回	まとめと総括

授業計画コメント

上記の授業計画はあくまでも目安であり、受講者の人数や理解度に合わせて進度を調整することがあります。

授業方法

前期は、ひとり一文ずつ音読・訳読する発表形式で進めます。後期は担当者を決めて、グループによる発表形式で音読・訳読します。

使用言語

日本語・英語

準備学習(予習・復習)

予習として、受講者全員が、各回の授業で指定された箇所の日本語訳を作成すること。発表の担当者は配布資料を作成すること

(2時間)。
復習として、作成した日本語訳を見直し、文法理解が不十分であった箇所については教科書や文法事典で調べて修正すること(2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	後期レポート
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	20 %	授業での発表内容、参加度
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

- ・中級文法を理解し、適切な訳文を作成している。
- ・19世紀フランスの歴史や文化に関連する人物や事柄について文献などを意欲的に調査している。
- ・入門演習で身につけたアカデミックスキルズに基づき、口頭発表の資料やレポートを作成している。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験、レポートは採点后コメントをつけて返却し、フィードバックします。
Moodleも使用しますので、基本的な操作ができるよう各自でマニュアルを確認してください。

教科書コメント

授業で使用する資料は教員が作成、配布します。

参考文献

ジュール・ヴェルヌの世紀：科学・冒険・《驚異の旅》,フィリップ・ド・ラ・コタルディエール、ジャン＝ポール・ドキス,東洋書林,2009,9784887217478

参考文献コメント

授業内で適宜紹介します。

仏和辞典(中辞典以上の収録語彙数の辞書)を必ず持参してください。
1年次、2年次に使用した教科書、文法書も適宜持参して、すぐに参照できるようにすることが望ましいです。

履修上の注意

履修者制限あり。第1回授業に必ず参加すること。

その他

発表は輪番で進めますので、やむを得ない理由で発表担当の日に遅刻・欠席する場合は、事前にMoodleで連絡し、無断欠席することがないようにしてください。

講義コード	U360211101	科目ナンバリング	036A404	単位	4
講義名	フランス語圏文化演習(文学・思想)A				
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)				
担当者名	一丸 禎子				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	通年 木曜日 4時限 中央－502				

授業概要

フランス17世紀の文学と歴史、社会の交差点を考察します。中心としてとりあげるのはフロンドの乱(1648-1653)ですが、この内乱の前後の時代も対象とします。たとえば、アレクサンドル・デュマ父の小説「ダルタニャン物語」は、ルイ14世の父である13世の時代から始まり(『三銃士』)、続いてルイ14世が幼くして即位した直後に起きるフロンドの乱の時代が描かれます(『二十年後』)。ダルタニャン物語が書かれるのは19世紀ですが、新聞小説としてたいへんな人気を博しました。なぜ19世紀にこの時代への関心がもたれたのでしょうか？歴史的出来事がどのように注目され、表現されていくかを考察します。その次に同時代の作家をとりあげます。モリエールはまさにフロンドの乱の同時代人です。そして、のちにルイ14世が政治の実権を掌握すると、この国王のもとで活躍します。

到達目標

17世紀フランスという領域にとどまらず、歴史的出来事との交差点に生じる文学事象に関心をもち、それを理解することを通じて、現代の私たちの社会について考察できるようにします。とりわけフロンドの乱の時代に数多く印刷されたマザリナード文書を観察することにより、現代のSNSと世論の形成について考察できるようにします。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション/授業展開の説明/17世紀フランスについて フランスの17世紀についてどんなことを知っていますか？
第2回	17世紀のフランスについて(概説) 日本の17世紀と比較してみる
第3回	ルイ13世とルイ14世の時代 アレクサンドル・デュマ(父)のダルタニャン物語について
第4回	アレクサンドル・デュマ(父)の『三銃士』史実と歴史創作1 デュマがこの作品を描いた背景
第5回	アレクサンドル・デュマ(父)の『三銃士』史実と歴史創作2 ダルタニャンという人物
第6回	アレクサンドル・デュマ(父)の『三銃士』史実と歴史創作3 20世紀における映画化
第7回	アレクサンドル・デュマ(父)の『二十年後』とフロンドの乱 教科書第1章(歴史的背景を理解する)
第8回	フロンドの乱1 教科書第1章(Wikipediaの記述を検証する)
第9回	フロンドの乱2 教科書第1章(マザリナード文書とは)
第10回	17世紀のメディア環境1 教科書第3章(17世紀パリの印刷・出版・書籍販売業)
第11回	17世紀のメディア環境2 教科書第2章(17世紀の「作家」とは)
第12回	フロンドの乱(1648-1653)とマザリナード文書 印刷術と世論の形成: SNSと比較してみよう(討論)
第13回	前期のふりかえりと理解度の確認
第14回	17世紀「作家」の誕生 教科書第2章
第15回	フロンドの乱の同時代人の作家 教科書第2章
第16回	モリエールという作家(生涯)
第17回	モリエールの作品について1(紹介・学生の発表)
第18回	モリエールの作品について2(紹介・学生の発表)
第19回	17世紀舞台芸術
第20回	映画『モリエール』に使われている作品の翻案1
第21回	映画『モリエール』に使われている作品の翻案2
第22回	ルイ14世とモリエール1
第23回	ルイ14世とモリエール2
第24回	映画『王は踊る』に描かれるモリエールの最後

第25回	全体のまとめ
第26回	理解度の確認

授業計画コメント

シラバスに記載されている計画は、履修者のフランス語習熟度、関心、資料調査能力などにより、授業開始後に調整します。

授業方法

演習形式。発表とディスカッションにより展開します。授業中にランダムに意見を聞いていくこともします。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

履修者全員にとって次の授業に必要な準備は前もって提示します(教科書の何ページを読んでおく、〇〇について調べておく等)。発表担当者は(個人あるいはグループで)スライドを作成し、時間内にまとめられるように原稿を準備します。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

発表、授業への積極的な取り組み、質問への的確な答えなどを総合的に平常点に加えます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教室もしくはMoodle

教科書

フロンドの乱とマザリナード,一丸禎子,マザリナード・プロジェクト,初,2023,978-4-909411-21-1

教科書コメント

【重要】この書籍は一般書店では購入できません。
フランス図書のオンラインのみでの販売です。
<https://www.francetosh.com/>

参考文献コメント

必要に応じて、その都度授業時間内に提示します。

履修上の注意

履修人数の制限あり(25名)。初回の授業に必ず参加すること。
インターネット、図書館で資料を探す必要があります。また宿題も出るので、授業時間外にも時間的余裕が必要です。

その他

Web上の以下のURLを参照のこと。
mazarinades.org (フランス語・マザリナード文書のオンライン・デジタル・コーパス)
mazarinades.jp (日本語・参考文献・年表)

講義コード	U360211102	科目ナンバリング	036A404	単位	4
講義名	フランス語圏文化演習(文学・思想)B				
副題	『レ・ミゼラブル』を読む				
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)				
担当者名	中山 慎太郎				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	通年 木曜日 1時限 中央－508				

授業概要

ミュージカル版や映画版の『レ・ミゼラブル』を見たことはあっても、原作を読んだことがある人は少ないのではないのでしょうか。本授業では、19世紀のフランス社会について学びながら、ヴィクトル・ユゴーの『レ・ミゼラブル』をフランス語の原文で読解していきます(もちろん、『レ・ミゼラブル』は長編小説ですので、抜粋して読んでいきます)。原文でしか味わえない作品の魅力や作品内の様々な仕掛けを見つけていきましょう。また、作品の背後にあるユゴーの思想や、込められた想いに触れていければと思います。あわせて「アダプテーション」されたミュージカル作品、映画、ドラマ、アニメも分析の対象とします。「アダプテーション」の魅力と可能性についても考えていきたいと思います。

到達目標

1. 社会背景や文化的背景に目を向けながら、文学作品を分析することができる。
2. 他ジャンルの芸術作品と関連させながら、文学作品を分析することができる。また、文学のアダプテーションの可能性について考察することができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス:ヴィクトル・ユゴーと『レ・ミゼラブル』
第2回	『レミゼ』を読む前に:ロマン主義者としてのユゴー —— 『ノートルダム・ド・パリ』を読む1
第3回	『レミゼ』を読む前に:ロマン主義者としてのユゴー —— 『ノートルダム・ド・パリ』を読む2
第4回	『レミゼ』を読む前に:ロマン主義者としてのユゴー —— 『ノートルダム・ド・パリ』を読む3
第5回	『レミゼ』を読む前に:文学とアダプテーション:ディズニー版『ノートルダムの鐘』
第6回	『レミゼ』を読む前に:詩人としてのユゴー1
第7回	『レミゼ』を読む前に:詩人としてのユゴー2
第8回	『レ・ミゼラブル』を読む:読解とディスカッション
第9回	『レ・ミゼラブル』を読む:読解とディスカッション
第10回	『レ・ミゼラブル』を読む:読解とディスカッション
第11回	『レ・ミゼラブル』を読む:読解とディスカッション
第12回	『レ・ミゼラブル』を読む:読解とディスカッション
第13回	前期のまとめ
第14回	前期の復習
第15回	『レ・ミゼラブル』を読む:読解とディスカッション
第16回	『レ・ミゼラブル』を読む:読解とディスカッション
第17回	『レ・ミゼラブル』を読む:読解とディスカッション
第18回	『レ・ミゼラブル』を読む:読解とディスカッション
第19回	『レ・ミゼラブル』を読む:読解とディスカッション
第20回	『レ・ミゼラブル』を読む:読解とディスカッション
第21回	文学とアダプテーション:ミュージカル、映画『レ・ミゼラブル』1
第22回	文学とアダプテーション:ミュージカル、映画『レ・ミゼラブル』2
第23回	文学とアダプテーション:ドラマ『レ・ミゼラブル』
第24回	文学とアダプテーション:『レ・ミゼラブル 少女コゼット』
第25回	レポートについて
第26回	まとめ

授業計画コメント

授業の詳細は初回の授業で指示します。上記の授業内容はあくまで提案なので、履修者と相談のうえ授業の進め方を決めていきます。

授業方法

演習形式。
講師の解説だけでなく、受講者の輪読と発表、及びディスカッションによって授業を進めていきます。

使用言語
日本語

準備学習(予習・復習)

訳読や発表の担当者以外も配布資料の必要部分をすべて読んでおくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	60 %	発表含む
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

口頭発表の際にコメントをします。また、レポートについては希望者にコメントをします。

教科書コメント

プリント配布

参考文献

レ・ミゼラブル(全5巻):平凡社ライブラリー,ヴィクトル・ユゴー,平凡社,2019,9784582768923

詩集:ヴィクトル・ユゴー文学館 第1巻,ヴィクトル・ユゴー,潮出版社,2000,9784267015618

参考文献コメント

上記以外については授業内に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

原文で作品を味わう楽しさを感じてもらえればと思います。翻訳を参考にしながら良いので、ゆっくりと原文を読み、その魅力を味わってみてください。

講義コード	U360211103	科目ナンバリング	036A404	単位	4
講義名	フランス語圏文化演習(文学・思想)C				
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)				
担当者名	土橋 友梨子				
開設部門	フランス語圏文化学科	配当年次	学部 3年～4年		
時間割	通年 金曜日 4時限 西2-505				

授業概要

18世紀フランスの代表的な文学作品を何作品か読んでいきます。
 この時代の小説の特徴は一人称小説、回想録小説、書簡体小説ですが、なぜこのような形式の小説が流行したのでしょうか。こうした流行は突如現れたものではなく、その時代の社会や文化のなかで培われ、成熟しました。
 作品をただ読むだけでもおもしろいですが、授業ではこの問いについて一緒に考えていきましょう。

到達目標

フランス語で書かれたテキストを読解する力をつけます。
 啓蒙の世紀である18世紀フランスという時代の歴史・文化・社会について学びながら、この時代に書かれた文学作品についての知識を深めていきます。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション、18世紀フランス文学について
第2回	モンテスキュー『ペルシア人の手紙』(1)
第3回	モンテスキュー『ペルシア人の手紙』(2)
第4回	プレヴォー『マノン・レスコー』(1)
第5回	プレヴォー『マノン・レスコー』(2)
第6回	ヴィルヌーヴ夫人『美女と野獣』(1)
第7回	ヴィルヌーヴ夫人『美女と野獣』(2)
第8回	ヴォルテール『カンディード』(1)
第9回	ヴォルテール『カンディード』(2)
第10回	ヴォルテール『カンディード』(3)
第11回	デイドロ『運命論者ジャックとその主人』(1)
第12回	デイドロ『運命論者ジャックとその主人』(2)
第13回	前期のまとめ
第14回	ルソー『告白』(1)
第15回	ルソー『告白』(2)
第16回	ルソー『告白』(3)
第17回	レチフ『パリの夜』(1)
第18回	レチフ『パリの夜』(2)
第19回	レチフ『パリの夜』(3)
第20回	メルシエ『タブロー・ド・パリ』(1)
第21回	メルシエ『タブロー・ド・パリ』(2)
第22回	ラクロ『危険な関係』(1)
第23回	ラクロ『危険な関係』(2)
第24回	ベルナルダン・ド・サン＝ピエール『ポールとヴィルジニー』(1)
第25回	ベルナルダン・ド・サン＝ピエール『ポールとヴィルジニー』(2)
第26回	後期のまとめ

授業計画コメント

履修者の関心に合わせて、訳読するテキストや進度が変更される場合もあります。

授業方法

演習形式で行います。
 まず、教師が作品や作家に関する概要を講義し、その内容をふまえたうえで学生のみなさんに該当箇所を訳していただきます。事前の準備がない場合は授業を進めることができなくなりますので必ず予習をしておいてください。
 訳してきた文章を参加者同士で検討し合うグループワークも取り入れます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

準備学習(予習・復習)

予習:指定されたテキストを自分自身で訳してください。つまり、訳した箇所の内容を自分の言葉で簡潔に述べられること、代名詞が何を表しているのかを明確にすることなどを目指しましょう(2時間程度)。
復習:間違えて読解していた場所を見直し、理解を深めてください。また、扱った作品について調べましょう(2時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業への積極的な参加姿勢を重視します。つまり、事前にきちんと準備をし、積極的に発言することが求められます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に行います。

教科書コメント

プリントを配布します。

参考文献コメント

授業内で指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり(25名)。
第1回目の授業に必ず出席すること。

講義コード	U3602111Z1	科目ナンバリング	036A404	単位	4
講義名	◇フランス語圏文化演習(文学・思想)				
副題	フランス近代文学読解				
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)				
担当者名	田上 竜也				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 3年～4年	
時間割	通年 水曜日 4時限 仏文院生室				

授業概要

フランス現代作品の読解。テキストは履修者の関心に従い、相談の上決定する。フランス現代文学と現代思想の接点に位置するような作品をひとつないし複数選んで読む予定。

到達目標

作品の正確な読解につとめるとともに、さまざまな解釈の広がりを把握します。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業概要の説明、テキストの選択
第2回	テキスト訳読
第3回	テキスト訳読
第4回	テキスト訳読
第5回	テキスト訳読
第6回	テキスト訳読
第7回	テキスト訳読
第8回	テキスト訳読
第9回	テキスト訳読
第10回	テキスト訳読
第11回	テキスト訳読
第12回	テキスト訳読
第13回	前期まとめ
第14回	テキスト訳読
第15回	テキスト訳読
第16回	テキスト訳読
第17回	テキスト訳読
第18回	テキスト訳読
第19回	テキスト訳読
第20回	テキスト訳読
第21回	テキスト訳読
第22回	テキスト訳読
第23回	テキスト訳読
第24回	テキスト訳読
第25回	テキスト訳読
第26回	後期まとめ

授業計画コメント

大学院生及び、卒業演習履修者を主な対象とする。それ以外の学部生も履修可能だが、多すぎる場合は選抜する可能性あり。

授業方法

原則対面による演習形式だが、場合によりZoom使用。

使用言語

日本語・英語

準備学習(予習・復習)

各自毎回数ページを読んでくること。とくに指名された箇所は、各版の注など読み込み、どのような解釈が可能か説明できるようにする。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	70 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

能動的クラス参加、グループ作業の成果等)70% 聴講態度重視。居眠り、私語、飲食(ガム、飴も含む)、無断退出(必要な場合には必ず申告すること)、メールなどは大きな減点対象となります。レポート30%。

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められることは言うまでもない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内の発表内容をまとめたもの(配布資料含む)をレポートとする。

教科書コメント

テキストはコピー配布。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

主にメールを利用。

講義コード	U3602111Z2	科目ナンバリング	036A404	単位	4
講義名	◇フランス語圏文化演習(文学・思想)				
副題	ル・クレジオ研究				
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)				
担当者名	鈴木 雅生				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 3年～4年	
時間割	通年 木曜日 4時限 仏文院生室				

授業概要

現代フランス文学を代表するル・クレジオの『Haï(邦題:悪魔祓い)』(1971年)を読む。西欧世界とはまったく異質な輪郭と色彩をもつインディオの世界認識のありかたを称揚し、ヨーロッパ文明とインディオ社会のヴィジョンの対立をストレートに描くこの作品は、ル・クレジオの思想と文学において大きな転回点となった作品である。これを題材として、ル・クレジオという作家の世界観や文学の特徴を考えていきたい。

到達目標

フランス語の高度なテキストを読み、その内容を文化的歴史的背景を含めて理解するとともに、自らの言葉で解釈・分析してそれを説得的に他者に伝えることができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	作家および作品についての解説
第3回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(1)
第4回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(2)
第5回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(3)
第6回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(4)
第7回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(5)
第8回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(6)
第9回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(7)
第10回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(8)
第11回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(9)
第12回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(10)
第13回	前期のまとめ
第14回	後期ガイダンス
第15回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(11)
第16回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(12)
第17回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(13)
第18回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(14)
第19回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(15)
第20回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(16)
第21回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(17)
第22回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(18)
第23回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(19)
第24回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(20)
第25回	後期のまとめ
第26回	全体のまとめ

授業計画コメント

詳しい授業計画は初回授業時に配布する。

授業方法

演習形式の授業であるので、大筋を説明した後は、各自にテキストを分担してもらいながら授業を進める。単なる訳読ではなく、担当した箇所の分析やコメントを求めるため、必要に応じてテキスト外の資料も参照することとなるだろう。最終的には各々の関心のある観点からレポートをまとめてもらう。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

準備学習(予習・復習)

自分の担当範囲はもちろん、各回で進むテキストの部分を下調べすること(2-3時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。
この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められることは言うまでもない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

教科書

Haï: Sentiers de la création, Le Clézio, Skira, 1971

教科書コメント

原書は絶版のため、プリントを配布する。

参考文献

悪魔祓い: 岩波文庫, ル・クレジオ, 岩波書店, 2010, 978-4003751084

講義コード	U360300101	科目ナンバリング	036B405	単位	2
講義名	論文指導演習A				
英文科目名	Practice in thesis writing				
担当者名	横川 晶子				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 3年～4年	
時間割	第1学期 月曜日 4時限 西2－406				

授業概要

4年次に制作する卒業論文の準備段階として、論理的な文章の書き方、論文の形式、論文の作成方法を実践的に学びます。また、フランス語圏の文化について関心のあるテーマを見つけ、考察する方法を学びます。さらに、論文を執筆する上で知っておくべき研究倫理を学びます。

到達目標

論文作成に必要な知識と技術を習得し、多角的な知見にもとづいて文学・芸術作品や文化事象の問題点を探り出し、論考の過程を適切に表現する力を身につけ、卒業論文などを執筆できるようになります。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業内容及び授業の進め方について
第2回	日本語の表記に関する基本的な事柄
第3回	論文のテーマと問いについて（1）具体例をもとに
第4回	論文のテーマと問いについて（2）歴史的視点について
第5回	参考文献の探し方
第6回	参考文献表の書き方
第7回	論理的な文章の書き方に関する注意点
第8回	引用について
第9回	注の作成について
第10回	論文の構成について
第11回	序論及び結論の書き方
第12回	フランス語の要旨の書き方
第13回	総括

授業方法

講義形式による授業です。各回の授業内容に即したプリントを配布し、具体的な例をあげながら説明をおこないます。また、授業内容に沿った課題を複数回出し、提出された課題をもとに補足説明や個人的なアドバイスをおこないます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業中に配布した資料をよく読んで理解すること。授業期間中に複数回課題を出すので、締切日までに提出すること。（2～3時間）

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	90 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

論文作成のルールを身につけ、卒業論文にふさわしいテーマについての論考を適切に表現できることを評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題はコメントを付して返却、または授業内で説明をおこないます。個別にアドバイスを与えることもあります。

教科書コメント

授業中に随時プリントを配布します。

参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席すること。

履修できるのは、主に卒業論文、卒業翻訳、卒業演習を履修する資格がある学生。「論文指導演習B」「論文指導演習C」との重複履修は不可。

その他

課題はMoodleでの提出とします。個別の連絡もMoodleを通じて受け付けます。

講義コード	U360300102	科目ナンバリング	036B405	単位	2
講義名	論文指導演習B				
英文科目名	Practice in thesis writing				
担当者名	横川 晶子				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 3年～4年	
時間割	第2学期 月曜日 4時限 西2－406				

授業概要

4年次に制作する卒業論文の準備段階として、論理的な文章の書き方、論文の形式、論文の作成方法を実践的に学びます。また、フランス語圏の文化について関心のあるテーマを見つけ、考察する方法を学びます。さらに、論文を執筆する上で知っておくべき研究倫理を学びます。

到達目標

論文作成に必要な知識と技術を習得し、多角的な知見にもとづいて文学・芸術作品や文化事象の問題点を探り出し、論考の過程を適切に表現する力を身につけ、卒業論文などを執筆できるようになります。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業内容及び授業の進め方について
第2回	日本語の表記に関する基本的な事柄
第3回	論文のテーマと問いについて（1）具体例をもとに
第4回	論文のテーマと問いについて（2）歴史的視点について
第5回	参考文献の探し方
第6回	参考文献表の書き方
第7回	論理的な文章の書き方に関する注意点
第8回	引用について
第9回	注の作成について
第10回	論文の構成について
第11回	序論及び結論の書き方
第12回	フランス語の要旨の書き方
第13回	総括

授業方法

講義形式による授業です。各回の授業内容に即したプリントを配布し、具体的な例をあげながら説明をおこないます。また、授業内容に沿った課題を複数回出し、提出された課題をもとに補足説明や個人的なアドバイスをおこないます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業中に配布した資料をよく読んで理解すること。授業期間中に複数回課題を出すので、締切日までに提出すること。(2～3時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	90 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

論文作成のルールを身につけ、卒業論文にふさわしいテーマについての論考を適切に表現できることを評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題はコメントを付して返却、または授業内で説明をおこないます。個別にアドバイスを与えることもあります。

教科書コメント

授業中に随時プリントを配布します。

参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席すること。

履修できるのは、主に3年次の学生。「論文指導演習A」「論文指導演習C」との重複履修は不可。

その他

課題はMoodleでの提出とします。個別の連絡もMoodleを通じて受け付けます。

講義コード	U360300103	科目ナンバリング	036B405	単位	2
講義名	論文指導演習C				
英文科目名	Practice in thesis writing				
担当者名	土橋 友梨子				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 3年～4年	
時間割	第2学期 金曜日 5時限 西2－505				

授業概要

4年次に制作する卒業論文の準備段階として、論理的な文章の書き方、論文の形式、論文の作成方法を実践的に学ぶ。また、フランス語圏の文化について関心のあるテーマを見つけ、考察する方法を学ぶ。さらに、論文を執筆する上で知っておくべき研究倫理を学ぶ。

到達目標

論文作成に必要な知識と技術を習得し、多角的な知見にもとづいて文学・芸術作品や文化事象の問題点を探り出し、論考の過程を適切に表現する力を身につけ、卒業論文などを執筆できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の説明、卒業論文の構成を学ぶ
第2回	論文にふさわしい形式と文章を学ぶ
第3回	学術論文を分析する
第4回	テーマを探す・絞る
第5回	参考文献を探す
第6回	序論を書く
第7回	論文の構成を考える、パラグラフについて学ぶ
第8回	フランス語圏文化学科の決まりを学ぶ(1):固有名詞の表記の仕方
第9回	フランス語圏文化学科の決まりを学ぶ(2):参考文献の正しい書き方(和書)
第10回	フランス語圏文化学科の決まりを学ぶ(3):参考文献の正しい書き方(洋書・翻訳書)
第11回	フランス語圏文化学科の決まりを学ぶ(4):引用の仕方と脚注の入れ方(和書)
第12回	フランス語圏文化学科の決まりを学ぶ(5):引用の仕方と脚注の入れ方(洋書・翻訳書)
第13回	レジュメの書き方、総括

授業方法

毎回の授業で授業内容に即したプリントを配布し、具体例をあげながら説明をおこなう。
 授業内容に沿った課題を複数回出し、提出されたレポートをもとに補足説明や個人的なアドバイスをおこなう。
 グループワークを通して、学生同士でお互いの提出物を評価し合う機会もある。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業中に配布した資料をよく読んで理解すること。授業期間中に複数回レポート課題を出すので、締切日までに提出すること。(2～3時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

論文作成のルールを身につけ、卒業論文にふさわしいテーマについての論考を適切に表現できることを評価する。
 授業では事前に出した課題を用いてグループワーク等を行うため、出された課題は必ず行ってくること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートはコメントを付与して返却、または授業内で説明を行う。個別にアドバイスを与えることもある。

教科書コメント

授業中に随時プリントを配布する。

参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。 第1回目の授業に必ず出席すること。

履修できるのは、主に3年次の学生。当年度内での「論文指導演習A」「論文指導演習B」との重複履修は不可。

その他

LMSによりレポート課題を提出してもらうので、PC環境を整えておくこと。

講義コード	U360302101	科目ナンバリング	036B406	単位	4
講義名	文献調査演習				
副題	卒業論文を提出する学生のための授業				
英文科目名	Research and Documentation				
担当者名	CARTON, Martine				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 3年～4年	
時間割	通年 火曜日 1時限 中央－505				

授業概要

卒業論文を提出する3-4年生を歓迎します。先生と一緒に研究のテーマの設定、論文か発表の構成法、そのために必要な情報を収集する方法、特にフランス語の文献を探す方法を学びます。最後に、論文または発表のレジюмеをつくります。

到達目標

研究のテーマを決めること、インターネットで情報(本や記事やビデオやウェブサイトなど)を収集すること、論文の構想をまとめること、レジюмеをつくること、最後にクラスでパワーポイントで発表すること。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の説明と参加する学生による自分のテーマの紹介 Choix du sujet 1 de recherches : フランスまたはフランス語に関連する研究対象を絞るためのブレインストーミングを行います。何の研究をしたいのか、何に興味があるのかを手掛かりにします。
第2回	Sujet 1 : Comment préparer un dossier sur le sujet
第3回	Préparer le plan du dossier
第4回	Préparer le plan du dossier
第5回	Rechercher des informations (sites Internet, livres, articles) sur le sujet 1
第6回	Rechercher des informations (sites Internet, livres, articles) sur le sujet 1
第7回	Rédaction par groupe ou individuellement du dossier sur le sujet 1
第8回	Rédaction par groupe ou individuellement du dossier sur le sujet 1
第9回	Rédaction par groupe ou individuellement du dossier sur le sujet 1
第10回	Rédaction par groupe ou individuellement du dossier sur le sujet 1
第11回	Rédaction par groupe du dossier sur le sujet 1
第12回	Présentation des reportages par les étudiants
第13回	Présentation des reportages par les étudiants
第14回	授業の説明と参加する学生による自分のテーマの紹介 Choix du sujet 2 de recherches : フランスまたはフランス語に関連する研究対象を絞るためのブレインストーミングを行います。何の研究をしたいのか、何に興味があるのかを手掛かりにします。
第15回	Sujet 2 : Comment préparer un dossier sur le sujet
第16回	Préparer le plan du dossier
第17回	Préparer le plan du dossier
第18回	Rechercher des informations (sites Internet, livres, articles) sur le sujet 2
第19回	Rechercher des informations (sites Internet, livres, articles) sur le sujet 2
第20回	Rechercher des informations (sites Internet, livres, articles) sur le sujet 2
第21回	Rédaction par groupe ou individuellement du dossier sur le sujet 2
第22回	Rédaction par groupe ou individuellement du dossier sur le sujet 2
第23回	Rédaction par groupe ou individuellement du dossier sur le sujet 2
第24回	Présentation des reportages par les étudiants
第25回	Présentation des reportages par les étudiants
第26回	Présentation des reportages par les étudiants

授業方法

Les étudiants travailleront individuellement ou en groupe.

使用言語

日本語・英語

準備学習(予習・復習)

Préparation de 20-30 minutes avant chaque cours.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Les exercices seront corrigés et rendus aux étudiants, les présentations orales seront corrigées et notées à l’oral.

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に出席のこと。

講義コード	U360303101	科目ナンバリング	036B104	単位	4
講義名	フランス語実習A				
英文科目名	Practice in the French language				
担当者名	内藤 真奈				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 3年～4年	
時間割	通年 木曜日 3時限 北1－303				

授業概要

フランス語能力テスト(TCF、DELFLなど)のA2レベルのフランス語運用力を身に着け、B1レベルを目指す。
すでに身につけた文法を使用しながら、語彙・表現を習得し、フランス語を聞き取る能力を伸ばす。同時に、フランス語で発信する練習をする。

教科書 Inspire 2 を使用し、文法事項、発音を確認しながら語彙を身に着け、フランス語に慣れ親しみ、読解・聞き取り問題演習を行う。

到達目標

ヨーロッパ言語共通参照枠(CECRL)に定められた段階のうち、A2レベルのフランス語力を完成させる。
TCF、DELFLなどのフランス語能力テストではA2・B1レベル、仏検では準2級・2級程度。

インプット:語彙・表現を習得し、文章を読む・耳で聞く能力を養い、実践的な場面で使われているフランス語を理解できるようになる。
アウトプット:インプットの段階で身につけた語彙・表現を用いて、説明する・意見を言う(話す)、文章を書くことがができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス フランス語の各種試験(仏検、TCF、DELFL・DALFL)の説明、教材・自習用サイトなどの説明
第2回	Leçon 1 : Se présenter 自己紹介をする 問題演習と実践練習
第3回	Leçon 2 : Faire connaissance 知り合う 問題演習と実践練習
第4回	Leçon 3 : Faire des prévisions 未来について話す 問題演習と実践練習
第5回	Leçon 4 : Présenter un fait culturel 文化を紹介する 問題演習と実践練習
第6回	Leçon 1-4 の総括、DELFLの問題に挑戦する
第7回	Leçon 12 : Ecrire un e-mail Eメールを書く 問題演習と実践練習
第8回	Leçon 13 : Demander de l’aide 助けを求める 問題演習と実践練習
第9回	Leçon 14 : Conseiller 助言する 問題演習と実践練習
第10回	Leçon 16 : Faire son CV 履歴書を書く 問題演習と実践練習
第11回	Leon 12-14, 16 の総括、DELFLの問題に挑戦する
第12回	Leçon 17 : Ecrire une biographie 人物紹介を書く 問題演習と実践練習
第13回	前期のまとめ
第14回	Leçon 18 : Raconter une expérience exceptionnelle 特別な経験を語る 問題演習と実践練習
第15回	Leçon 21 : S’engager 社会活動に参加する 問題演習と実践練習
第16回	Leçon 22 : Caractériser des produits 製品の特徴をとらえる 問題演習と実践練習
第17回	Leçon 23 : Parler de sa consommation 消費傾向について話す 問題演習と実践練習
第18回	Leçon 24 : Rédiger une lettre 手紙を書く 問題演習と実践練習
第19回	Leon 18, 21-24 の総括、DELFLの問題に挑戦する
第20回	Leçon 25 : S’nformer 情報を得る 問題演習と実践練習
第21回	Leçon 26 : Présenter un problème et proposer des solutions 解決策を考える 問題演習と実践練習
第22回	Leçon 27 : Donner son avis 意見を言う 問題演習と実践練習
第23回	Leçon 28 : Rédiger un réseau social SNSに投稿する 問題演習と実践練習
第24回	Leçon 30 : Décrire un projet de voyage 旅行を計画する 問題演習と実践練習
第25回	Leçon 31 : Raconter une expérience de vie à l’étranger 外国生活について話す 問題演習と実践練習
第26回	Leon 25-28, 30-31 の総括、DELFLの問題に挑戦する

授業計画コメント

教科書 Inspire 2 と自習用サイトを用いて授業を行う。練習問題や課題は選択的にを行い、その都度指示する。

授業方法
演習形式

使用言語
日本語

準備学習(予習・復習)

予習:授業で学ぶ課の語彙や表現を事前課題を行うことで覚える。文法問題も課題として出されるので確認してくる。(2時間)
復習:復習課題を行う。授業中に理解が難しかった問題は繰り返し練習問題を行う。(1時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	25 %	
学年末試験(第2学期)	25 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	10 %	前回授業の復習テスト
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	40 %	課題提出、積極的な授業参加
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

評価基準は目安であり、状況によっては変更する場合がある。
TCF、DELFなどのフランス語能力テストの受検は必須ではないが、学習成果の確認を測る目的で受検することを強く推奨する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業の初めに前回授業の内容の定着度合いを測る小テスト・アクティビティを行う。
小テスト、定期試験などの答案は採点し、コメントを付して返却する。

教科書

Inspire 2,Jean-Thierry LE BOUGNEC / Marie-José LOPES,Hachette,2020,978-2-01-513579-3

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に出席のこと。

その他

フランス語の読解や聞き取りができるようになるためには、語彙・表現を事前にインプットしておくことが不可欠である。予習を必ず行って授業に臨むこと。

講義コード	U360303102	科目ナンバリング	036B104	単位	4
講義名	フランス語実習B				
英文科目名	Practice in the French language				
担当者名	一丸 禎子				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 3年～4年	
時間割	通年 木曜日 3時限 中央－502				

授業概要

フランス語を耳で聞いて、目で読んで理解する力をつけるために、いくつかの方法を組み合わせで展開します。フランスで作成された最新の教科書『Inspire 2』(DELFDALFのA2に相当するレベル)を使い、加えてFrance2などのニュース番組の聴解・読解により、フランス語の実践的な運用能力を高めます。また、同時に映画や動画などの素材を用いて、教科書に出てくる日常的なシーン、さらにフランス社会の「今」と「今」の背後にある文化・歴史・社会のコンテキストについても理解を深めます。ディクテと語彙のテストがあります。

到達目標

聞いて理解する力をつける。また、聞いて理解する力をつけるために、具体的に何をしたらいいのか、勉強方法を身につけます。フランス語運用能力としては、欧州語学検定協会 ALTE が定めた国際規格に準拠し、フランス国民教育省が認定した公式フランス語資格DELFDALFにおけるB1,B2を目指します。国内の仏検では準2級、2級を目指します。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション/授業の進め方/教科書『Inspire 2』の紹介/DELFDALFと仏検の違いについて解説
第2回	教科書とWebで提供される視聴覚教材の使い方
第3回	教科書L. 1
第4回	教科書L. 1(ディクテと語彙のテスト)
第5回	教科書L. 2
第6回	教科書L. 2
第7回	教科書L. 2(ディクテと語彙のテスト)
第8回	教科書L. 3
第9回	教科書L. 3
第10回	教科書L. 3(ディクテと語彙のテスト)
第11回	教科書L. 4
第12回	教科書L. 4
第13回	教科書L. 4(ディクテと語彙のテスト)
第14回	DELFDALF応用問題と視聴覚教材を使った練習1
第15回	DELFDALF応用問題と視聴覚教材を使った練習2
第16回	教科書L. 5
第17回	教科書L. 5
第18回	教科書L. 5(ディクテと語彙のテスト)
第19回	教科書L. 6
第20回	教科書L. 6(ディクテと語彙のテスト)
第21回	教科書L. 7
第22回	教科書L. 7(ディクテと語彙のテスト)
第23回	教科書L. 8
第24回	教科書L. 8(ディクテと語彙のテスト)
第25回	DELFDALF応用問題と視聴覚教材を使った練習1
第26回	DELFDALF応用問題と視聴覚教材を使った練習2(テスト含む)

授業計画コメント

このほかに授業では、フランスの文化、社会、歴史を理解するために映画を使います。それは教科書のテーマ、France2などニュースになっている時事問題に関連して選びます。

授業方法

演習形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業の際に提示された予習範囲は確実に準備しましょう(およその準備時間は2時間とします)。復習は、各自、授業で学習したこと

を反復し、疑問点は整理して、つぎの授業の時に質問しましょう。また、動詞の活用、語彙の暗記、音読に関しては、指示がなくても、毎日続けられるように習慣化しましょう。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点においては、授業への積極的な取り組み、すぐれた質問内容、音読の習熟度、授業中のディクテの正確さなどを総合的に判断します。また、自主的に受けた学外試験(DELFDALF、仏検)の結果も単位取得の参考に加えますので申告してください。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教室もしくはMoodle

教科書

inspire 2,Jean-Thierry LE BOUGNEC他,Hachette,初,2020,978-2-01-513579-3

教科書コメント

この教科書の音源はWebで提供されています。また、この教科書にはWeb上で利用できる視聴覚教材が付録しています。授業でも使いますが、積極的に自習に役立ててください。

参考文献コメント

都度、関連するものを教室で提示します。

履修上の注意

履修者制限あり。初回の授業に必ず出席すること。
語学習得は教室の105分だけでは十分に効果を発揮できません。練習を積み重ねる必要があります。読解する時間がない場合でも、音読は毎日欠かさないようにしましょう。

講義コード	U360303103	科目ナンバリング	036B104	単位	4
講義名	フランス語実習C				
英文科目名	Practice in the French language				
担当者名	川口 寛子				
開設部門	フランス語圏文化学科		配当年次	学部 3年～4年	
時間割	通年 木曜日 4時限 西1－108				

授業概要

TCF・DELFのB1相当のフランス語力をつけることを目指す授業。文法力の復習、語彙力、読解力、聞き取り、発音などの能力を高めていく。

- 1) 発音規則を確認しながら、正しい発音の練習 → 短い文章の音読練習。
- 2) 語彙力を高めるためテーマ別(住居・身につけるもの・生活雑貨・環境問題など)の単語を覚える。
- 3) 教科書『Inspire2』を使用し、聞き取る力を伸ばし、同時にフランスの文化を養っていく。
- 4) 文法復習として問題演習を行う。

到達目標

実践的な場面で使われているフランス語を理解するために、文化的な理解を深めながら語彙を増やし、構文力をつける。TCF、DELFのレベルとしてはB1相当の能力をつけることを目指します(仏検では準2級または2級程度)。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス 授業方法の説明
第2回	Inspire 2 L1 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第3回	Inspire 2 L1 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第4回	Inspire 2 L2 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第5回	Inspire 2 L2 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第6回	Inspire 2 L3 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第7回	Inspire 2 L3 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第8回	Inspire 2 L4 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第9回	Inspire 2 L4 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第10回	Inspire 2 L5 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第11回	Inspire 2 L5 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第12回	前期まとめ
第13回	理解度の確認
第14回	前期試験のフィードバック Inspire 2 L6 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第15回	Inspire 2 L6 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第16回	Inspire 2 L7 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第17回	Inspire 2 L7 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第18回	Inspire 2 L8 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第19回	Inspire 2 L8 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第20回	Inspire 2 L9 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第21回	Inspire 2 L9 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第22回	Inspire 2 L10 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第23回	Inspire 2 L10 ①音読 ②語彙 ③問題演習 のいずれかを交互に行う。
第24回	DELFDALFの模擬テスト
第25回	後期まとめ
第26回	理解度の確認

授業計画コメント

上記の内容は目安であり、学生の理解度によって変わることがあります。テキストのほか、単語、文章を暗記しまとめて小テストを細かくやる予定です。TCFなどの演習問題も取り入れます。

授業方法

演習形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

学習した語彙や表現を復習してください。課題が出る場合もあります。(音読ファイルを含む)

Inspire 2については視聴覚資料(音源とビデオ)のサイトがあるので、予習復習に大いに活用すること。準備時間は1時間半ほど。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	25 %	
学年末試験(第2学期)	25 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	小テスト、音読などを含む
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

配分はあくまでも参考程度で、総合的に評価します。小テスト、ディクテ、音読などの課題提出も評価に含みます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題、試験は、授業で答え合わせをし、次につなげます。

教科書

Inspire 2, Jean-Thierry LEBOUGNEC / Marie-josé LOPES, Hachette, 2020, 978-2-01-513579-3

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席すること。